NUEVA

# ヌエバでチャンピオンを目指せ!!



国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球

全日本大学選手権（インカレ）
唯一の公式試合球




日本ハンドボール協会検定球




## 本大会試合球

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

**32H300WRB ヌエバ**

●手縫い●天然皮革●3号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

**32H200WRB ヌエバ**

●手縫い●天然皮革●2号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

molten®

株式会社モルテン

東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川5丁目5−7
大阪・名古屋・福岡・広島・四国・仙台・札幌・リノU.S.A.・デュッセルドルフG

# 愛されるハンドボールを目指して



（財）日本ハンドボール協会審判部長　　斉藤　実

過密日程の夏期日程も無事消化し、いよいよ日本リーグの開幕、また本年度のそれぞれの種別のまとめの大会を迎える季節となりました。特に今夏は第１回のビーチハンドボール世界選手権大会開催により、また新たな歴史が刻まれました。私は、ビーチハンドで国の威信を懸けたタイトル戦でありながら、久し振りにコートと観客席が一体となった爽やかハンドに接した感がしました。もちろん、ビーチハンドそのものがまだ娯楽性を含んでいることは承知していますが。

久し振りに爽やかさを感じたということは、各種大会において相変わらずレフェリーとプレーヤー・チーム関係者との軋轢が露骨に現れていることにより、そこに爽やかさが感じられないことが多いためであります。「自チームが勝利するため」はもちろん承知していますが、「レフェリーで負けた」とかゲーム中の不必要なアピール、日本リーグ等で活躍した者がクラブチームと対戦すると、技量やスピード・筋力の差を見せつけることにより、隠れた粗暴プレーで優位さをつけようとする行為、それを見つけ退場を命ずると「自分はやってない、知らない」、挙句の果てに「バレたか」。過去に活躍した、或いは活躍している選手だからこそ爽やかさが欲しいのです。

ある県では、有力チームの監督があまりに自分本位のクレームをつけるため、審判のなり手がなくなってしまったとも聞きます。こうした指導者に育てられたプレーヤーはどんな人間になっていくのでしょうか。学校関係であれ実業団関係であれ、指導者は自ら人間性を示し、プレーヤーを教育しなければなりません。この爽やかさのない状態が続くとファンからソッポを向かれ、「がんばれ10万人会」のサポーターも集められません。ファンは、誰が見てもレフェリーのミスであったとしても、大げさな抗議をせず次のプレーに移っていく感動的な場面が欲しいのではないでしょうか。

今度のルール改正には、プレーヤーに対しては４分間退場があり得ること、またベンチには注意・警告・退場・失格と退場の項が１つ増えたことは、こうした行為への対処とも考えられます。しかし、私達レフェリーは、ルールを大上段に構えようとは考えていません。各大会においてレフェリーに要求しているのは、「プレーヤーの素晴らしい技術を引き出せ」です。それを徹底するため各大会の前日に研修会を持ち細部にわたり再確認をしております。また、日本協会としては年１回トップレフェリー研修会を開催しております。これには全国大会に参加するレフェリーはもちろん、各都道府県のレフェリー・指導者にも参加できるよう案内を出しております。これに積極的に参加していただき、指導者の考え・レフェリーの目等多角的にルールと技術の研究を行い、日本のハンドボールを発展させる原点とする事としています。さらには、視聴覚器材とスタッフを充実させ、レフェリーの資質の向上を図る一助とする予定であります。こうしたレフェリーの努力とプレーヤー・トレーナーの努力が一体となり、オリンピック・世界選手権大会に常時出場させ、多くのファンから愛されるハンドボールにさせていこうではありませんか。

# 第56回国民体育大会

## 天皇杯は愛知県が、皇后杯は石川県が獲得

21世紀最初の国体、第56回国民体育大会ハンドボール競技は、「いいね！その汗、その笑顔」をスローガンに、10月14日から18日まで、宮城県富谷町、大和町、大郷町、大衡村の富谷スポーツセンター、大和町総合体育館、宮城大学体育館、フラップ大郷、大衡村多目的運動広場で、全国各ブロックの予選を勝ち抜いたチームにより熱戦が繰り広げられた。大衡村多目的運動広場では、屋外競技場のため天候が心配されたが、幸いにも競技日の14日、15日は好天に恵まれ、予定通りに競技が開催された。

注目の男女総合優勝の天皇杯は、愛知県が成年男子、少年女子の活躍で獲得した。女子総合優勝の皇后杯は、石川県が成年女子、少年女子の活躍で獲得した。

地元宮城県は、成年女子が４位に入賞したものの他種別での得点が伸び悩み、男女総合成績では６位にとどまった。また、皇后杯では７位に入賞した。男女総合成績、女子総合成績は表のとおりであった。

**男女総合成績一覧（天皇杯）**

| 順　位 | 入賞都道府県 | 得　点 | 種　別　成　績 |
|---|---|---|---|
| 1位 | 愛　知　県 | 82.5点 | 成年男子３位、成年女子５位、少年女子３位 |
| 2位 | 茨　城　県 | 70点 | 成年女子５位、少年男子２位、少年女子５位 |
| | 石　川　県 | | 成年女子２位、少年女子４位 |
| 4位 | 埼　玉　県 | 65点 | 成年男子４位、少年男子３位 |
| 5位 | 熊　本　県 | 62.5点 | 成年男子５位、成年女子優勝 |
| 6位 | 宮　城　県 | 60点 | 成年男子５位、成年女子４位、少年男子５位 |
| 7位 | 広　島　県 | 50点 | 成年男子優勝 |
| | 長　崎　県 | | 少年男子優勝 |
| | 沖　縄　県 | | 少年女子優勝 |

**女子総合成績一覧(皇后杯)**

| 順　位 | 入賞都道府県 | 得　点 | 種　別　成　績 |
|---|---|---|---|
| 1位 | 石　川　県 | 70点 | 成年女子２位、少年女子４位 |
| 2位 | 愛　知　県 | 52.5点 | 成年女子５位、少年女子３位 |
| 3位 | 熊　本　県 | 50点 | 成年女子優勝 |
| | 沖　縄　県 | | 少年女子優勝 |
| 5位 | 秋　田　県 | 45点 | 少年女子２位 |
| 6位 | 山　梨　県 | 40点 | 成年女子３位 |
| 7位 | 茨　城　県 | 35点 | 成年女子５位、少年女子５位 |
| | 宮　城　県 | | 成年女子４位 |

### 成年男子の部

成年男子の部は、24チームの参加で行われた。大会の展開は日本リーグ勢を中心とし実績のあるチームが順当に勝ちあがった。ベストエイトは湧永製薬の広島県、ジャパンオープンで４位に入賞した氷見クラブの富山県、大崎電気の埼玉県、本田技研熊本の熊本県、本田技研の三重県、地元宮城県、ジャパンオープン優勝の香川クラブの香川県、トヨタ車体と大同特殊鋼の合同チームの愛知県となった。





■準決勝

広 島 県　36 ( 19―3 / 17―8 ) 11　埼 玉 県

広島の堅い守りを埼玉は終始切り崩すことができなかった。一方広島は、キーパーからのスローをポスト、サイドシュートなどで多彩に得点に結び付け、一方的展開であった。後半、埼玉は猛反撃に出るが、スピードの点において一歩も二歩も勝る広島に対してなす術がなかった。

三 重 県　23 ( 8―8 / 15―12 ) 20　愛 知 県

三重は堅い守りからの速攻、一方愛知はミドルシュートとポストプレーで応戦し、拮抗した好ゲームとなり、8対8で前半を終了した。後半も守り合いの引き締まったゲーム展開となり、シュートチャンスを確実にものにした三重が23対20で勝利した。

■3位決定戦

愛 知 県　23 ( 11―8 / 12―8 ) 16　埼 玉 県

立ち上がりから、セット、速攻を駆使し、愛知が主導権を握り有利に展開、リードを広げた。埼玉も中盤よく反撃に出たが、終盤まで継続できなかった。後半に入っても、スピードに勝る愛知が速攻などで着実に加点し、埼玉を振り切った。

■決　勝

広 島 県　24 ( 11―8 / 13―11 ) 19　三 重 県



広島は堅い守りからの速攻、三重はセットからのミドルシュートで加点し、互角に展開。シュートチャンスを確実にものにした広島が3点リードして前半を終了。後半、広島は速い攻撃で確実に加点し、三重に追撃のチャンスを与えなかった。

広島県は、2年連続12回目の優勝。現行種別になってからは2年連続3回目の優勝。

## 成年女子の部

成年女子の部は、16チームの参加で行われた。大会の展開は、日本リーグ勢と昨年3位に入賞した筑波大学と茨城大学の学生を中心とする茨城県が、大きな影響力を持つと思われた。

1回戦では、やはり日本リーグ勢が強さを発揮し、オムロンのメンバーで固める熊本県、日立栃木のメンバーで固める栃木県、ブラザーのメンバーで固める愛知県、北國銀行のメンバーで固める石川県、シャトレーゼのメンバーで固める山梨県、立山アルミのメンバーで固める富山県が順当に勝ちあがった。

このほかでは、茨城県が北海道に快勝したが、イズミのメンバーで固める広島県は、前半地元宮城県の動きのよいディフェンスを攻め切れず、後半そのまま逃げ切られ2回戦進出はならなかった。

2回戦では、宮城県対愛知県、茨城県対石川県が好試合となった。宮城県対愛知県は、地元の応援もあり勢いに乗った宮城県が勝ち上がった。茨城県対石川県は、石川県が終盤茨城県に追いつき延長へと縺れ込み、延長ではそのままの勢いで石川県が勝ちあがった。茨城県は、エース早船が怪我でプレーできなかったことが残念であった。

■準決勝

熊本県 29（13－5／16－6）11 宮城県

立ち上がりから熊本は8番佐久川の速攻などで着実に加点していく。一方宮城も必死にボールを展開するも熊本のGK吉田を中心とした堅い守りを崩せず、前半を大差で折り返した。後半も熊本が7連続得点などで攻守にわたり宮城を圧倒した。宮城は4番太田や5番板谷のシュートなどで健闘したが、最後までペースをつかめなかった。



石川県 21（12－11／9－9）20 山梨県

前半、両チームとも静かな立ち上がりとなった。5分過ぎから、得点が動き始め、石川7番上出、山梨9番穂積の両シューターの点の取り合いとなり、石川が1点リードで折り返した。後半も両チームとも一歩も譲らない攻防が続いたが、石川が前半のリードを守り勝利を収めた。準決勝にふさわしい好ゲームであった。

■3位決定戦

山梨県 22（11－8／11－10）18 宮城県

前半、両チームともスピードある攻撃を繰り広げるものの、ディフェンスの壁が厚く、GKの好守もあり、なかなか得点をあげることができなかった。後半も前半同様、守りの攻防が繰り広げられた。山梨は12分、16分と2名同時の退場という苦しい場面があったが、宮城に得点を許さず守り抜き、20分7番稲吉のシュートを機に得点を重ね勝利を収めた。



■決　勝

熊本県 20（12－8／8－10）18 石川県

立ち上がり互角の展開となったが、熊本が10分過ぎから11番山田や2番藤長のシュートなどで4連続得点をあげ抜け出す。石川は7番上出の7mTなどで追い上げるが、相手退場のチャンスを生かせずペースをつかめないまま前半を終えた。後半、石川は熊本11番山田にマンツーを仕掛け、7番上出のシュートなどで追い上げたが、熊本が逃げ切り栄光を手中に収めた。

熊本県は2年連続16回目の優勝。現行種別になってからは、2年連続2回目の優勝。

## 少年男子の部

少年男子の部は、成年女子と同じ16チームで争われた。大会の展開は、インターハイを制した長崎瓊浦高校を中心とした長崎県に、伊奈高校の茨城県、大分国際情報高校の大分県などがどのように挑むかが注目された。

1回戦では実力どおりシードチームが順当に勝ち上がった。地元宮城県は、昨年優勝の富山県を後半手堅い攻めで逆転し、辛くも1点差で2回戦に進出した。

2回戦でも予想通り強豪チームが順当に勝ち上がった。2回戦では群馬県対大分県の試合が1点を争う好ゲームとなった。この試合、一進一退の展開を見せたが、残り4秒大分がミドルシュートでこの試合をものにした。



**■準決勝**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 長崎県 | 21 | 12－6 | 12 | 埼玉県 |
| | | 9－6 | | |

ゲームの流れが大きく動いた前半であった。立ち上がりからＧＫ1番川村の好守で5点リードした埼玉に対して、10分過ぎ相手の退場を機にリズムをつかんだ長崎がその後10連続得点するなどして12対6で前半を折り返した。後半に入ってもエース11番岩永らの活躍で更にリードを広げた長崎が21対12で快勝した。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 茨城県 | 22 | 8－9 | 21 | 大分県 |
| | | 14－12 | | |

前半終了まで両チームともに接戦が続いたが、後半に入り、茨城が確実に点差を広げていった。後半17分、大分はマンツーマン・ディフェンスをしかけ同点に追いつき、最後までもつれたが、結局ディフェンスで守り切った茨城が逃げ切った。

**■3位決定戦**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 埼玉県 | 22 | 14－7 | 20 | 大分県 |
| | | 8－13 | | |

互角の立ち上がりを見せた両チームであったが、大分は相手の堅い6：0ディフェンスを崩し切れず苦戦。一方埼玉は、7分過ぎ6番門山、5番岸本の速攻でリズムをつかみ、7連続得点をあげるなどゲームの主導権を握った。後半、大分は相手の退場を機に激しく追い上げるが、前半のリードを守り切った埼玉が逃げ切った。



**■決　勝**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 長崎県 | 22 | 10－4 | 14 | 茨城県 |
| | | 12－10 | | |

茨城は地引を中心として攻撃を仕掛けるが長崎の堅いデ

ィフェンスとＧＫの好セーブにより好機を逃した。一方長崎は岩尾、濱口、岩永の活躍により確実に得点を重ねた。結局、長崎のディフェンスは最後まで崩れず、長崎が勝利した。

長崎県は、各試合圧倒的な強さを見せ初優勝を飾った。

## 少年女子の部

少年女子の部は、24チームで争われた。大会の展開は、少年男子と同じくインターハイ上位チームが中心になると思われた。インターハイ優勝の桜花学園と東海学園を主力とする愛知県、同準優勝の夙川学園の兵庫県、県立陽明高校を中心メンバーとする沖縄県、大分鶴崎高校の大分県である。これらのチームはシードされているため２回戦からの登場となった。

１回戦では、浦和実業学園や埼玉栄高校などのメンバーで構成する埼玉県対倉敷中央高校や総社高校のメンバーで構成する岡山県、福井商業を中心メンバーとする福井県対地元宮城県、県立添上高校を中心メンバーとする奈良県対松山北高校と今治北高校を主力とする愛媛県、栃木女子高校を主力とする栃木県対清水商業と静岡城北高校を中心とする静岡県、筑紫女学園や福岡女子商業などで構成する福岡県対文大杉並高校を中心とする東京都など好ゲームが続出した。

２回戦は、シードチームはそれぞれ強みを発揮し勝ちあがった。シードチーム以外では水海道二校を中心メンバーとする茨城県が福島県を１点差で下し、接戦をものにした。また、大曲農業高校の秋田県は前半、固いディフェンスで東京都の得点を押さえ込み快勝し、勝ちあがった。

３回戦では、愛知県、沖縄県のシードチームはそれぞれ快勝し準決勝に駒を進めたが、大分県は小松市立高校の石川県に後半逆転を許し敗退した。また、兵庫県は前半を１点リードで折り返したが、秋田県ＧＫの好守もあり後半５得点と拙攻で逆転を許し敗退した。



**■準決勝**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 沖縄県 | 34 | 9－16<br>16－9<br>（延長）<br>4－1<br>5－3 | 29 | 愛知県 |

前半、愛知はＧＫ12番山下を中心に堅いディフェンスとポストを中心とした多彩な攻撃で着実に加点し、７点差で終了。後半、沖縄は11番仲宗根のステップシュートや速攻などで驚異的な追い上げを見せ、残り３分でついに同点として延長戦へ。ここでも沖縄は、この試合大活躍の仲宗根の７ｍＴやステップシュートで混戦を抜け出し、決勝戦へ駒を進めた。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 秋田県 | 28 | 14－9<br>14－12 | 21 | 石川県 |

前半、両チームの点の取り合いとなり一進一退を繰り返す序盤の展開であったが、20分過ぎから秋田ペースとなり、６連続得点をあげるなどして５点リードで折り返した。後半、石川も４番宮下を中心に必死に追い上げを見せるが、秋田の勢いは止まらず、28対21で秋田が勝利を収めた。

■3位決定戦

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 愛知県 | 28 | 12—14<br>11—9<br>(延長)<br>1—1<br>4—1 | 25 | 石川県 |

序盤、着実に加点した愛知が主導権を握るようにみえたが、石川も両フローターの思い切りの良いプレーで勢いづき次々と得点し、24分過ぎに逆転、14対12と石川の2点リードで折り返した。後半、4連続得点で愛知がリードした後は追いつ追われつのゲーム展開、勝敗の行方は延長戦へ。延長に入っても互いに退場者を出す苦しい戦いであったが、延長後半3点リードした愛知が3位入賞を果たした。



■決　勝

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 沖縄県 | 30 | 14—8<br>16—9 | 17 | 秋田県 |

巧みなパスさばきと多彩な攻撃でリードする沖縄を果敢にゴールを狙う秋田が追撃。しかし、10分過ぎからは沖縄ペースでゲームが進み14対8で前半を終了。後半も秋田は必死に反撃を試みるが力及ばず個人技、戦術ともに充実した沖縄が30対17で少年女子の頂点に立った。地元宮城の大声援を背に、両チームのはつらつとしたプレーが光った決勝戦であった。

沖縄県は、42回大会以来14年ぶり2回目の優勝。現行種別になってからは初優勝。

また、今大会では、インターハイでは東京の文大杉並に破れ1回戦で敗退している秋田県が、東京都を破り、固いディフェンスで決勝まで進出し、活躍したことは特筆される。

# 話　題

## 民泊で多いに盛り上がった国体

今年の国体も民泊で多くの選手団が、地元の方々と交流を持った。地元の方々も選手との歓迎会、激励会を開催し選手に心温まるもてなしをされた。この民泊をお引き受け頂いた方々で応援団が結成され、それぞれ会場ではチーム単位ににぎやかな応援が繰り広げられた。それぞれ趣向を凝らした衣装や、登り旗、おそろいのはっぴや、鳴り物で民泊した選手に声援を送っていた。選手にとってもよい経験が出来たものと思う。残念なことは、このような心温まるもてなしにもかかわらず、一人の心無い発言が地元の方に不快な思いをさせたことである。参加する選手諸君は、ハンドボールの代名詞にもなる全国から選ばれた選手であることを自覚し、節度ある行動をしていただきたいものである。



◀民泊の応援団で盛り上がる観客席



◀桂宮殿下に御説明する大西専務理事

## 桂宮殿下がハンドボール競技を観戦

本年度、皇族のハンドボール競技観戦は、桂宮殿下がご来場になりました。ご観戦なされたゲームは、少年男子決勝戦長崎県対茨城県。ご説明役には、大西武三専務理事が当たられた。

# 第56回国民体育大会 ハンドボール競技会・結果

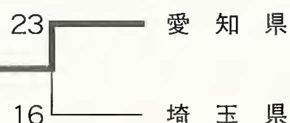
## 〈成年男子〉

2001年10月14日～18日／於・大和町総合体育館 他



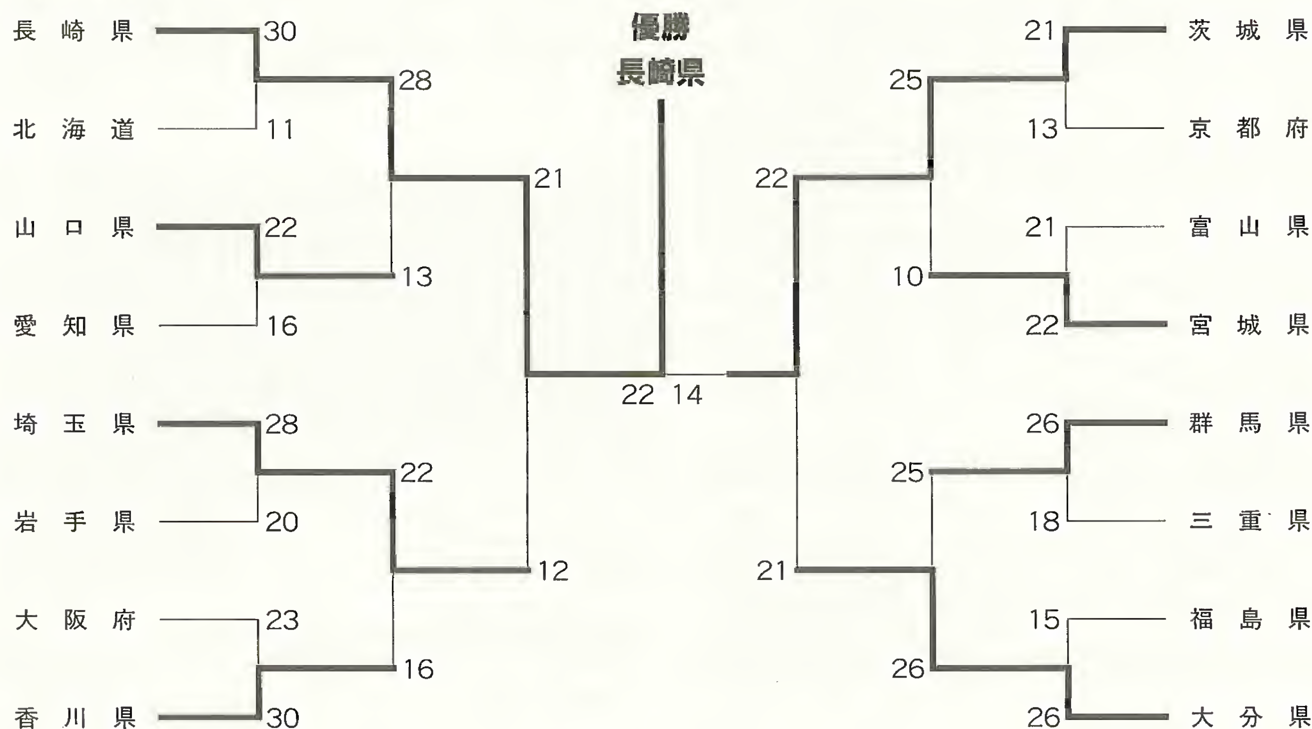

〈3位決定戦〉

愛知県　3位



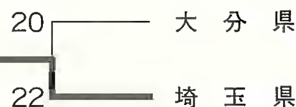

## 〈少年男子〉

2001年10月14日～17日／於・富谷スポーツセンター 他




〈3位決定戦〉

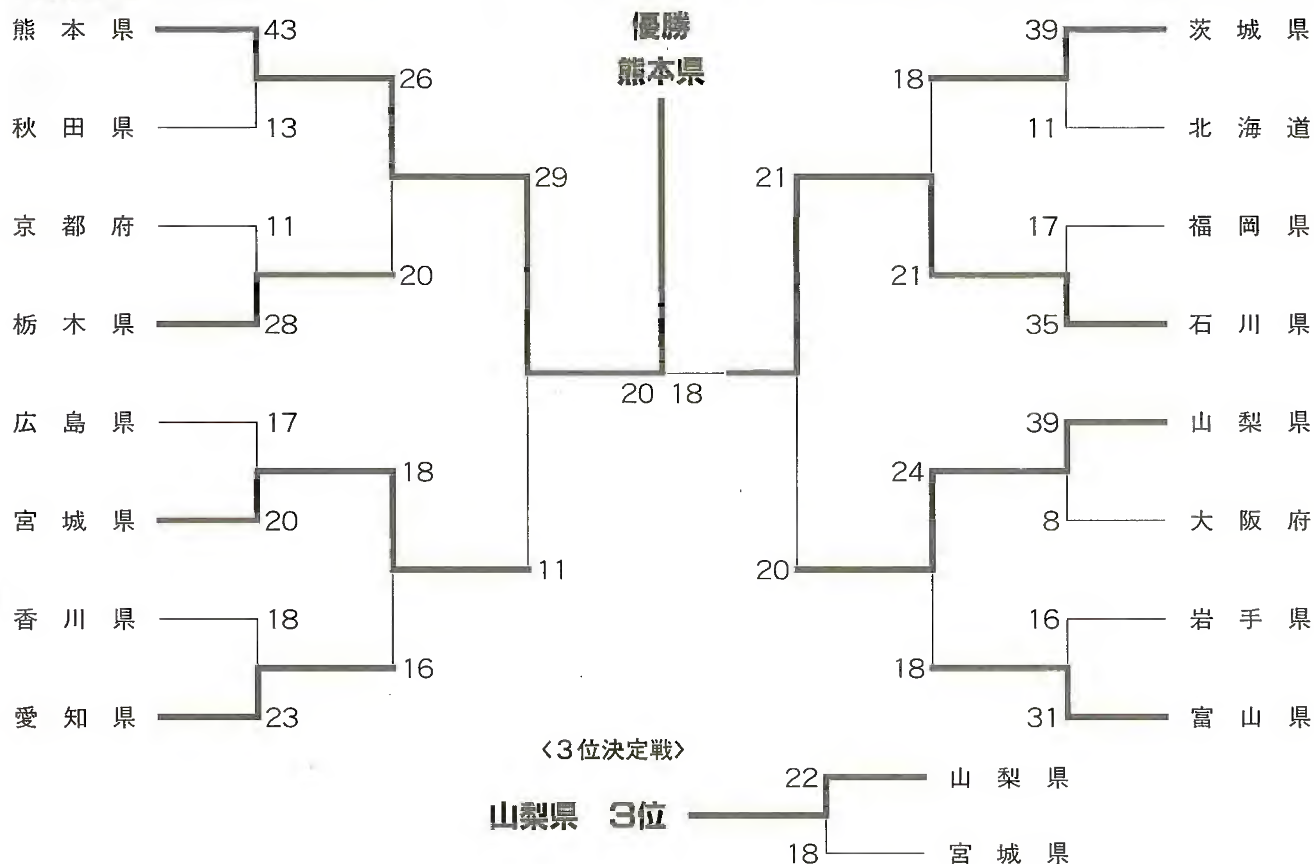
埼玉県　3位



# 第56回国民体育大会 ハンドボール競技会・結果

## 〈成年女子〉

2001年10月15日～18日／於・富谷スポーツセンター 他




## 〈少年女子〉

2001年10月14日～18日／於・富谷スポーツセンター 他



# 女子ナショナルチーム強化について

全日本女子チーム監督　伊　藤　宏　幸

## 1．全日本チームの現状

1988年4月から韓国から招聘した黄コーチ、荷川取コーチ（2001年1月まで）と共にスピードハンドボールをテーマに掲げ諸施策を行ってきました。主な結果は下記の通りです。

(1) 1998年（於　タイ）　アジア大会　3位（6カ国）
(2) 1999年（於　デンマーク）
世界選手権　17位（24カ国）
(3) 2000年（於　熊本）
シドニーオリンピックアジア予選　3位（5カ国）
(4) 2000年（於　上海）
アジア選手権兼世界選手権予選　2位（7カ国）
(5) 2001年（於　大阪）　東アジア大会　2位（6カ国）




女子ナショナルチーム・伊藤 宏幸 監督

## 2．全日本チームの課題

2004年アテネオリンピック出場に向け、更にスピードハンドボールを進化させる為の施策を継続、検討する。

(1) プレス系デフェンスの理解と継続
(2) 上記の基本となる1対1の強さと継続できる体力の養成
(3) 個人・コンビの基本技術・戦術のレベルアップ
(4) ロングシュートを打ち込める、または1対1の突破力のある選手の育成
(5) ポジションチェンジとシステムチェンジの攻撃戦術の理解と実践
(6) 日本独自の新しい戦術とコンビネーションプレーの開発（スタッフ、分析プロジェクトが一体となる）
(7) 国際経験を積みながら、攻防の激しさ、厳しさ、そして精神的な逞しさを身につける
(8) 限界への挑戦・人間性の向上

## 3．今後の計画

(1) 2001年12月4日～16日　世界選手権（於　イタリア）
(2) 2002年4月～9月　合宿・遠征
(3) 2002年7月
アジア選手権兼世界選手権アジア予選（於　シリア）
(4) 2002年9月
アジア大会兼アテネオリンピック予選（於　プサン）

## 全日本女子チームの現状と今後の課題

この3年間、世界を相手に戦う中で、感じてきたこと、また日本の課題を私見として述べさせていただきます。

スキル・パワー・スピードとハンドボールに必要な3つの要素に日本は劣るうえ、状況の変化に対応する判断、決断力も見劣りします。加えて大きな体格差（1999年世界選手権出場24カ国中、平均身長・最上位ベラルーシ179.4cm、日本は最下位の166.4cm）そういう現状の中で、いくらベストと思われる戦術、戦略があっても、個々の自立した力がないと、ゲームを勝利に導くことは、非常に難しいと言わざるを得ません。つまり、世界レベルに到達する上で、基本的な技術・戦術の完成度の質が大きく左右するのは言うまでもないことです。瞬時に戦況を把握し、速く・強く・正確に効果的にプレーできるかが、基本的な質であり、その質の差で勝負が決まります。

シドニーオリンピック予選までの2年間は､｢スピードハンドボール｣をテーマに掲げ、スピード・パワー・持久力を可能な限り（韓国選手の体力レベルを目標に）引き上げると共に、個々の特性を活かした攻撃フォーメーション、体格差をカバーするための攻撃的なデフェンスシステムからの速攻パターンを作り上げる。そして国際経験を積み、プレッシャーに打ち勝つ精神力を身につけることに努力しました。完成とまでは行かないまでも、個人の持っている能力を最大限に発揮してくれたのではないかと思います。その中で忘れてならないのは、韓国から招いた黄コーチの存在です。彼の持っている情熱とコーチングが選手のモチベーションを大きく引き上げた要因だと思われます。韓国に対しても苦手意識どころか倒すことができるかも？　倒してみせるという気持ちになれたことは今後に大いに期待できます。しかし、まだまだ世界のレベルとは格差があります。

これは誰の責任でもなく、我々が持つ条件の一つだと思われます。攻守のフォーメーションをパターン化することで、あるレベルまでは強くすることはできるかもしれませんが、永続的な強さには繋がりません。

本来目指す「スピードハンドボール」は基本プレーのスピード化をはかり、その中で選手個々の持つ判断力と決断をフルに活かし、展開されなければなりません。

大変レベルの高いものであり、そこを強化するためには多くの時間が必要です。

また、基本である1対1の勝負で突破口を開くことができる選手を、どれだけ多く生み出せるかによって、ゲームの展開は大きく変わってきます。

シドニーオリンピックアジア予選終了後、昨年8月の世界選手権アジア予選までの間は上記の1対1、2対2の基本プレーに最重点をおき、トレーニングを積みましたが、理解はできるものの、なかなか実践に結びつかないのが正直なところでした。やはり時間のかかるところです。時間はかかりますが、やはり時間をかけてもその部分を徹底しないと世界に勝つ戦術・戦略のところに到達できないのではないかと思います。

個人の持っているキャパシティをどれだけ広げられることができるか、広げられることにより、チームとしてのキャパシティは更に広がり、高度な戦術と戦略の部分に到達できます。

そして、もっと国際経験を積む必要があります。経験から作り上げられる逞しい精神力が備われば、世界の強豪国のレベルに近づけるのだと確信しています。

## 全日本女子チーム アテネプラン（案）

最大目標

2004年アテネオリンピックメダル獲得

年度目標

2001年　世界選手権大会決勝トーナメント進出

2002年　アジア大会2位以内

2003年　オリンピックアジア予選1位

　　　　世界選手権大会5位以内

方　　針

スピードハンドボールの進化と諸施策の実行

目指す姿

1、確率の高いスピーディーなハンドボール

2、オフェンス成功率60%以上・シュート成功率65%以上・ミス発生率15%以下・GKセーブ率50%以上

3、個人技術、個人戦術のレベルアップ

4、日本独自の戦術の完成

5、チーム･個人が目的意識を持ち、“活き活きと活力に満ち溢れたチーム風土”を構築する。

# 平成13年度全国理事長会開催される

毎年国体時に開催されている全国理事長会が、本年もみやぎ国体の総合開会式の日、10月13日〈土〉午後2時より、仙台市の三井アーバンホテルにて開催された。出席者は日本協会役員と各都道府県協会理事長並びに各連盟の理事長など35名が出席し活発な意見交換が行われた。

開会に先立ち、宮城県協会並びに日本協会より挨拶があった。

## 1. 日本ハンドボール協会現状報告

日本協会執行部組織図について説明がなされた。ここ数年事業が過密になってきている。スポーツ界の変革期に突入しており、どうやって乗り切っていくか。競技力の向上と普及を考えたとき、各協会・連盟は何を考えていくか。今までは大会の開催・競技力の向上がメインであった。5500チームから4000強へと減少している現在、各協会・連盟が何をできるかを考えていかなくてはいけない時期である。全体的に減少傾向にある中、地域スポーツでは小学校が120、30と増えてきている。学校スポーツと地域スポーツの融合という考え方も必要になってくる。ハンドボール競技人口の減少に歯止めをかけるように考えていただきたい。

## 2. アテネ特別強化事業について

昨年より、アテネ強化委員会を設立。今年の4月から施策を進めてきた。オリンピックへの出場およびメダルの獲得をめざし、様々な強化策が立てられている。その一環として、若手選手の外国への留学などを行っている。また、国際大会を行い、ナショナルチームの試合数を増やし、現段階で30試合をこなしている（昨年は7試合)。力は付いてきている。現場の監督が様々なことに取り組んでいる。アジアサーキットでは観客を動員し、企業スポンサーを獲得し成功を収めている。

ロシアのクリチェンコをコーチに迎えたい。

女子ナショナルチームについては、12月4日からのイタリアの世界選手権に参加することになっている。アテネプランを立てて努力している。

## 3. 普及指導の現状について（NTS含む）

今年度から特別普及委員会が設置され、アンケートを6月に実施した。週休二日制に伴い、普及しやすい環境になったところもある。それに伴い、1・2日の講習でジュニアを指導できる、協会独自の資格を作っていきたいと考えている。

NTSは2年目に入ったが、各都道府県協会での担当を決めていただき、ブロックの指導が終わった。小学校から高校までのトッププレーヤーだけを指導するだけでなく、何がそれぞれの世代に必要なのかを考えていくという側面も備えている。

小学生・中学生のプレーヤー、チームを一つでも増やせるようお願いしたい。

## 4. がんばれハンドボール10万人会－現状と入会案内について

3年目を迎え定着してきた。サポート会員の更新率がよい。各県50名から100名になるようにご協力お願いしたい。人数が増えると、県への還元も多くなるのでご協力お願いしたい。

## 5. スポーツ振興計画

国の施策の中で行っていかなくてはうまくいかない。国がどうしたいのか・考えているのかを念頭にいれて、積極的に行政の方へアプローチしていってもらいたい。

## 6. 日本リーグの現状

昨年から日本リーグ機構と改め運営している。日本のトップレベルを維持し、トッププレーヤーを育成し、子供達に夢を与えたいと考えているが、企業の経営方針の変化などにより、チーム数が減少してきている。そういった状況の中、本年度からイズミがメイプルレッズと改名し、地域のサポーター・企業のサポートを受けクラブチームとして活動している。HC東京も純粋なクラブチームだが加盟を認めている。今までの形にとらわれないで、いろいろな参加の形を認めていきたい。

こういう状態なので、今年度は現状の維持・節約という方向で考えているが、来年以降は前進していきたい（女子は種々の事情で現状維持)。女子の大会の観客動員数が減ってきている。観客増員への力添えをお願いしたい。

## 7. 社会人連盟構想

平成15年をめどに社会人連盟を設立し、ジャパンオープンと高松宮杯実業団選手権を合体し、大きな大会にしたい。

社会人クラブ連盟（大人から子供まで）が妥当なネーミング。日本協会主導で執り行うという形にしていきたい。

## 8. 新ルールについて

来年度4月1日から実施だが、日本リーグと12月の全日本総合を新ルールで行うことになった。審判の準備は整っている。9項目が変更点である。

追加：JOCについて

スポーツ行政が大きく変わってきている。法律は制定されていたが、具体的な施策が今までなかった。しかしtotoの実施に伴い、動き始めた。ソフトウェア（システム）とハードウェア（トレセン）と指導者の養成の3点が必要であり、競技団体にはソフトウェアと指導者の育成が求められている。

少子化であっても広い範囲で考えれば問題ではない。学校や企業でだめであれば、地域で面倒を見ればよい。枠を取り払って考えていく必要がある。ナショナルトレーニングシステムが実施できるようにしてもらいたい。

60人の部員がいれば、AチームBチーム…を作って大会に参加させていく方向が考えられる。指導者の養成は競技団体の責任として育てていかなくてはいけない。企業

がチームを持つのではなく外から支えていく形態がでてきている。スポーツで経済・企業が救えるかという逆サポートするパワーを持てるように頑張ってほしい。

## 質疑応答

1）国体について

・夏季移行

夏季移行に関して条件を4つ出したが、以下の2点について打診があった。

①全県参加については理解はできるが、残りの3種別が12チームでは、試合をしないで天皇杯・皇后杯の競技得点が入るという問題があり了承できない。

②体育館に関しては、44×22mは難しい。また、コストの面から空調の設置も難しい。

①に関しては、16チームにすると全県参加ができないので、12チームで競技方法について、12チームを4グループに分けてリーグ戦を行い、各グループの上位2チームによるトーナメント戦を実施することで得点に関する問題を解決する方法も考えられる。

②に関しては40×20mだけは譲らずに交渉する。

質疑・意見はなし。

・活性化について、質疑意見無し。

・指導者資格

公認ハンドボールコーチ、公認ハンドボール指導員の確保をお願いしたい。

2）登録問題について

・登録料改訂について

登録金検討委員会で2回の検討を行い、理事会で決議、評議員会で承認された。

〈質疑・意見（全体的なことも含めて）〉

【茨城】評議員会で文部科学省との関連で中学校から登録金を徴収するのに問題があると伺ったが、文部科学省との確認はとれているか。

《Ans.》中体連は日本体育協会に加盟したので大丈夫だと思う。登録料を何らかの形で徴収している都道府県協会が43％ある。文部科学省にはそういう決まりはない。

【山形】中体連関係の大会出場で複数の学校の合併出場が認められているが、その場合の登録の仕方はどうなるのか。

《Ans.》複数校でもチームが参加できるように早急に検討していきたいと思う。

【秋田】資料で結果だけが知らされるケースが多いので、我々が参加できる理事長会にしていただきたい。末端の状況をご理解いただきたい。

《Ans.》登録金については各ブロックの担当者に来ていただいて決めているので、ブロックで意見を調整していただくとありがたい。

【福島】値上げした分はどの部分をカバーするのか。なぜ、これだけの値上げになったかを明確にしてほしい。NTSについても事前の説明が不足しており、今になって詳しく説明されているのは逆ではないか。ジャパンオープンについても本県では参加したがっていない。そういう現状も考えて、社会人連盟を位置づけてほしい。また、ジャパンオープンについては出たい人間だけを集めてチームを作ると登録金がかかるので、国体のように柔軟に対応してほしい。上ばかりでなく、底辺のことも考えてほしい。

《Ans.》ブロック会議できちんと話されており、ブロックから各理事長への連絡がうまくいっていない。社会人クラブ連盟構想は日本リーグ（トップ）までつながる大会を開きたいということである。

【秋田】保険金が500円から1000円に値上がりしたが、各都道府県ではどう対応しているか

【熊本】熊本国体で大きなけがをしてしまい、その時の保険では保証しきれなかった。きちんとした保証をしよう、ということでこういう流れになった。

【日本協会】国がスポーツで使う財源をtotoに振り替えようとしている。国体に対する国の補助は年々値下がりしている。

【愛媛】10万人会で50名から100名で頑張ってくれ、という話があったが、登録人数が多い県にはもっと頑張れと強くいっていくようにしてほしい。やるところはやってやらないところはやらないということがないようにお願いしたい。

《Ans.》登録者数によって人数を設定するといろいろな問題が出てくるので各県でアイデアを出して還元金が戻ってくるように頑張ってほしい。

【大分】小学生の普及という話が出ていたが、危機感を持っている。社会人でのプレーヤーを指導者にと考えているが、高校後の行き場がない。日本協会ではどのように考えているか。

《Ans.》そこまで手をつけていない。市町村の協会をつくっていただいて、やりたい人ができる場をその場で作っていくのがいいのではないか。協会としてはなにか、という方策はないが6時間程度の講習でジュニアの公認指導員として資格をとれるようにしていきたい。都道府県協会が普及の世話役として、努力していってほしい。

【山形】高校で終わってしまう、という形が多いので日本協会で何らかの資格をつけてやるという形をとれば惹きつけるきっかけになるのではないか。

《Ans.》高校で2年間活動したか、スポーツ教室で1年以上指導した者を対象にJ級指導員資格をとれるようにしたいと考えている。

【熊本】リーグ連盟があり、35チーム参加している。地域を母体にしたのが半分・OBチームが三分の一ぐらいである。九州の大会にでたいと思っているチームが3チームだけである。協会主催で地方で開催可能な大会は地方に振り分けてほしい。

《Ans.》全日本総合選手権の開催を各ブロックに振り分けていきたいので各地区にやっても良いという希望をとりたい。第27回大会から第3地域で開催することになっているので頭に入れておいてほしい。

【質問】大学生のプレーヤー数が多いので、卒業後も続けるようにしていってほしい。全日本総合が放送されると思うが、去年のようなことがないようにしてほしい。

【学連】関東の選手は関東方面で続けているようである。努力したい。

《Ans.》チーム・審判には健全化を図るように指導している。マッチバイザーがTVに出ることがないようにしたい。指導者・選手ともに質が落ちてきている。外部から人に来てもらい講習をする予定である。

【福岡】各地区の理解を得、共通した考え方をもとにいい選手を育てていこうという趣旨で始まったはずだが、NTSについて理解を得られていないのではないか。システム作りをするのであれば、目に見えるような形で進めてほしい。

《Ans.》日本協会の構成母体は各都道府県である。スタートの段階では急ぐあまり、連絡が徹底していなかった部分があった。

教職員連盟より

28回大会で女子の部が参加数1チームで中止し、男子も4チームということで14年度は中止と言うことになった。マスターズは参加チームが増えてきている。

# 感動体感2001・車椅子ハンドボール(公開競技)
# 第1回全国障害者スポーツ大会
## 翔く・新世紀みやぎ大会

京都府ハンドボール協会副会長　小西　博喜(近畿福祉大学教授)

21世紀のスタートを飾るハンドボールのビックイベントが障害者スポーツの普及と振興を目指して新しいスポーツライフのメッセージを全国に、そして未来に向けて発信するため、翔く・新世紀みやぎ大会が開催された。

感動体感2001第1回全国障害者スポーツ大会の公開競技にボッチャ、車椅子ハンドボール、綱引きの3種目の中に採用される光栄に浴したことは、驚異的な祭典として欣快に堪えない次第である。



大会は平成13年9月24日(月・祝日)グランディ・21総合体育館において、地元宮城県から6チーム、新潟県1チーム、京都府1チーム、計8チームの参加で、予選リーグ形式から決勝トーナメントで実施された。

開会式は宮城県障害者スポーツ協会副会長の開会宣言に始まり、大会会長浅野史郎宮城県知事、仙台市長、利府町長のあいさつと、宮城県障害者スポーツ協会会長の励ましの言葉があり、式典は終了した。特に選手宣誓はなかった。

メインアリーナではボッチャ、車椅子ハンドボール、綱引きの3競技がそれぞれ3区分のコートで競技されるため、各種目の特徴あるかけ声や手拍子の歓声、仮装応援団等がスタンドから鳴り物入りの声援で館内はいやがうえにも盛り上がった。前日、会場視察をした際、仙台市障害者スポーツ協会事務局長・飯田謙一氏、同車椅子ハンドボール総務副委員長・下田悟氏と約1時間にわたって、全国大会の開催、全国組織づくり、日本スポーツ障害者協会への加盟等について今後の課題と抱負を話し合った。

その申し合せとして、この公開競技に採用された車椅子ハンドボールを“みやぎ”だけに終わらせることなく、さらに次回から毎年開催されるこの全国障害者スポーツ大会(毎年、国体開催県)で実施される競技種目に正式種目として加入を目指すことが当面の課題であることを確認した。

そのためには、本年11月25日(日)京都市で開催される第12回全京都車いすハンドボール大会への他府県(前回は宮城県、福井県の2県)の特別参加を積極的に呼び掛け、啓蒙活動を含めて今後の指針を具体化していくことが急務であり、全国的規模の参加拡大を図りたいと考えている。すでに全国大会の競技規則については、宮城方式と京都方式の現行ルールをドッキングし、競技規則及び競技用語の統一を図るべく、岡本克彰氏(大阪府)と再三にわたって協議を重ね作成を終わった段階である。

現在、個人競技種目として陸上競技(身・知)、水泳(身・知)、卓球(身・知)/盲人卓球(身)、アーチェリー(身)、ボウリング(知)、フライングディスク(身・知)がある。また団体競技種目としては車椅子バスケットボール(身)、バスケットボール(知)、グランドソフトボール(身)、ソフトボール(知)、バレーボール(身・知)、サッカー(知)、フットベースボール(知)、以上が全国障害者スポーツ大会の正式種目として現在実施されている種目である。

注)(身)は身体障害者、(知)は知的障害者。



## 競技結果

**■予選リーグA組**

ドリーマーズ　18−14　みやぎフェニックス
ドリーマーズ　23− 8　福祉大・KOMANOゼミ
ドリーマーズ　21−13　ネイバー
みやぎフェニックス　16−11　福祉大・KOMANOゼミ
みやぎフェニックス　18− 7　ネイバー
ネイバー　15−14　福祉大・KOMANOゼミ
(順位)①ドリーマーズ　②みやぎフェニックス
③ネイバー　④福祉大・KOMANOゼミ

**■予選リーグB組**

せんぷくボンバーズ　15−14　ビッグスワン
せんぷくボンバーズ　18− 8　69er's
せんぷくボンバーズ　22− 5　西多賀ワークキャンパス
ビッグスワン　5−3　69er's
ビッグスワン　26− 9　西多賀ワークキャンパス
69er's　14− 9　西多賀ワークキャンパス
(順位)①せんぷくボンバーズ　②ビッグスワン
③69er's　④西多賀ワークキャンパス

**■決勝トーナメント**

▼1回戦
ビッグスワン　21− 8　ドリーマーズ
みやぎフェニックス　16−12　せんぷくボンバーズ
▼3位決定戦
せんぷくボンバーズ　20−16　ドリーマーズ
▼決勝
みやぎフェニックス　14−10　ビッグスワン
(順位)①みやぎフェニックス(宮城)②ビッグスワン(新潟)
③せんぷくボンバーズ(宮城)④ドリーマーズ(京都)

## 今回の競技実施要領(抜粋)

**1．競技規則**

「公開競技」車椅子ハンドボール競技規則によるもののほか、以下の要領に定めるところによる。

(1)チーム構成について

①ベンチプレーヤーは障害者1名以上、女性1名を含んだ5名以上10名以内の男女混合チームとする。

②フィールドプレイヤーは、1チーム5名編成で、障害者1名以上及び女性1名以上含む男女混合チームとする。

※障害者とは、身体障害者手帳、療育手帳所持者を指す。

③登録選手は15名以内とし、その中の1名はキャプテンとする。また、チーム責任者として監督1名を置く。キャプテンは監督を兼ねることができる。選手・監督以外は、コーチ・マネージャー・トレーナーの各1名が役員としてベンチ入りが認められる。

**2．競技方法**

予選は4チームによりリーグ戦を行い、各リーグ1位・2位チームより決勝トーナメントを行う。

**3．競技用具**

(1)ボール

主催者が用意したボールを使用する。

(2)車いす

(3)スンダードタイプ車いす、または、スポーツタイプ車いすとする。なお、著しく通常の装備とかけ離れたものや、危険と思われる装備がついたものについては、大会競技責任者等の判断により、主催者が用意した車いす乗り換えなければならない。　(以下省略)

※競技規則・競技用語作成メンバーは次の通り。
委員長・岡本克彰(大阪)・金子知拓・飯田博(京都車いす)・下田悟・丹朝勝(宮城車いす)・小西博喜・藤本昇(京都協会)

# より速く、より面白く

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

新世紀年度の日本リーグが開幕した。女子の世界選手権が開かれるため、スケジュール的には変則となっている。年内で前期を終え、新春は１月10日から再開される。初戦で北国が敗れ、またイズミがクラブ化した広島メイプルレッズも星を落とすなど波乱含みのスタートとなった。果たしてプレーオフに進出するのはどこか。例年以上に興味が増してきそうな予感がする。

さて、今回のリーグでの話題は、順位争いとは別にして、他の大会に先立って導入されたルール改正だろう。なかでもパッシブプレーに関することである。これに各チームがどう対応していくかも、結果を問われることにもなりかねない大きなみどころであろう。

とにかく「もたもた」していると、すぐ予告合図、すなわち審判の右手が上がる。このことは、言い換えれば「よりスピーディー」なゲーム展開を目指しているものと思われる。そのことが結果的には試合を面白く、激しい戦いにしていくものだろう。

リーグが開幕して何試合か観戦したが、ベンチも、選手も、審判も、いずれもまだ試行錯誤といった感じを受けた。

ある審判が面白いことを言っていた。「プレー中も選手が横目でこちらをチラチラ見る。やはり気になるのだろうね」。選手側にもまた同じような思いがあるようだ。「気にならないといったらウソになるし…。とくにリズムの悪い時は、今まで以上に立て直しがむずかしい。まあ、早く慣れることしかないだろう」。

慣れるにしたがってよりスピーディーで観客を感動させるような戦いが、各試合で見られるようになるだろう。あっという間に相手に攻め込む、息つく間もないパワフルなゲームが次々とコート上に爆発すれば、必ずファンは喜ぶはずだ。こうした感動を呼ぶ戦いをぜひとも多くの人たちに見せたいものである。

観客動員にはいい結果をもたらすに違いない。そのためにもリーグのＰＲをさらにしていく必要があるのは言うまでもない。どこで、いつ試合があるか一まだまだ知らない人は各地に多くいる。ハンドボール界発展のためには「より速く、より面白く」を起爆剤にしていきたいものである。



# 第53回全日本総合男子の部組合せ

| チーム名 | 1回戦 12日(水) | 準々決勝 13日(木) | 準決勝 14日(金) | 決勝戦 15日(土) | 準決勝 14日(金) | 準々決勝 13日(木) | 1回戦 12日(水) | チーム名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 本田技研（JHL） 1 | あ. 12：00～ | け. 13：00～ | す. 16：00～ | 決勝 そ. 15：05～ | せ. 17：40～ | さ. 16：20～ | お. 12：00～ | 9 大同特殊鋼（JHL） |
| 大同クラブ（日本協会） 2 | | | | | | | | 10 インテックス21（日本協会） |
| 大阪体大（学連） 3 | い. 13：40～ | | | | | | か. 13：40～ | 11 トヨタ自動車（日本協会） |
| アラコ九州（JHL） 4 | | | | | | | | 12 大崎電気（JHL） |
| トヨタ車体（JHL） 5 | う. 15：20～ | こ. 14：40～ | | | | し. 18：00～ | き. 15：20～ | 13 北陸電力（JHL） |
| 豊田合成（日本協会） 6 | | | | | | | | 14 香川クラブ（ジャパンオープン） |
| 日新製鋼（ジャパンオープン） 7 | え. 17：00～ | | | | | | く. 17：00～ | 15 中部大（学連） |
| 本田技研熊本（JHL） 8 | | | | | | | | 16 湧永製薬（JHL） |

開催期日：平成13年12月12日(水)～15日(土)

開催場所：駒沢屋内体育館（あ～え、け～せ）、新宿スポーツセンター（お～く）、駒沢体育館（そ）

# 第53回全日本総合女子の部組合せ

| チーム名 | 1回戦 24日(月) | 準々決勝 25日(火) | 準決勝 26日(水) | 決勝戦 27日(木) | 準決勝 26日(水) | 準々決勝 25日(火) | 1回戦 24日(月) | チーム名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 広島メイプルレッズ（JHL） 1 | ア. 12：00～ | ケ. 12：00～ | ス. 12：30～ | 決勝 ソ. 13：00～ | セ. 14：30～ | サ. 15：20～ | オ. 12：00～ | 9 北國銀行（JHL） |
| 香川銀行TH（ジャパンオープン） 2 | | | | | | | | 10 OFC（日本協会） |
| 筑波大（学連） 3 | イ. 13：40～ | | | | | | カ. 13：40～ | 11 東女体大（学連） |
| ソニーセミコンダクタ九州（JHL） 4 | | | | | | | | 12 立山アルミ（JHL） |
| 日立栃木（JHL） 5 | ウ. 15：20～ | コ. 13：40～ | | | | シ. 17：00～ | キ. 15：20～ | 13 ブラザー工業（JHL） |
| ムネカタ（JHL） 6 | | | | | | | | 14 あじこめ（ジャパンオープン） |
| 福岡大（日本協会） 7 | エ. 17：00～ | | | | | | ク. 17：00～ | 15 国士舘大（日本協会） |
| シャトレーゼ（JHL） 8 | | | | | | | | 16 オムロン（JHL） |

開催期日：平成13年12月24日(月)～27日(木)

開催場所：市川市塩浜体育館（ア～エ、ケ～ソ）、市川市国府台市民体育館（オ～ク）

# 小学生チーム活動特集 その12

## ＊総　括　編＊

昨年度開催の第13回全国小学生大会男女優勝校紹介からスタートしましたこの特集は、その後全国各地で活躍中のチームにも寄稿いただき、前月号（11月号）迄で11チームの活動状況を特集してきました。少子化と言われる社会情勢下で小学生チームの活動の様子や地域との係わり合いなどを改めて確認することにより、ハンドボール界全体の最重要課題の一つである「若年層への普及・拡大」への具体的な展開への手掛かりとなるよう総括編として取纏めました。

纏めに当り現在時点の日本協会への登録（小学生チーム）状況を記載します。

| | 平成10年度 | 平成11年度 | 平成12年度 |
|---|---|---|---|
| チーム数 | 94 | 113 | 135 |
| 人　数 | 1,717 | 2,232 | 2,558 |

・日本協会全体で見ると、高校生以上のチーム数及び登録人数は減少の傾向が見られるが、小学生・中学生のいわゆる若年層では年々増加の傾向にある。
・中学生登録人数（平成12年度：21,482名）と比較すると、小学生登録人数は１割強の人数割合であり、小学生の活動環境の整備次第では登録人数が飛躍的に増える可能性が高い。

## 総　括

### 1. 小学生チーム学年別部員数分布（掲載：11チーム男女合計）

| 学　年 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 5年生 | 6年生 | 合計 | チーム平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人　数 | 5 | 17 | 29 | 57 | 73 | 98 | 279 | 25 |
| 割合(%) | 2% | 6% | 10% | 21% | 26% | 35% | 100% | ― |

・高学年がチームの大半であり低学年の部員はまだまだ少ない状況である。

### 2. 発足の経緯

チーム発足に至る経緯としては、地元の熱心な先生が主体となっての発足への動き、日本協会普及委員会等の様々な地域講習会開催を受けたのを機に受講者を中心とした発足への動き、などが挙げられている。又、活動組織体としては、「スポーツ少年団」・「小学校内クラブ活動」・「任意の団体」に分けられるが、今回の小学生シリーズ掲載チームでは「スポーツ少年団」が大半を占めている。

更には、チームの発足までには指導者・コーチの人選、地域関連者との調整、練習場所の確保、チーム運営面での財源確保など種々の対応事項があり奮闘の様子がうかがわれる。

### 3. 指導上の留意事項

小学生チームの指導面では、ハンドボールを楽しく・好きなること・好きにさせることや、中学生以降もハンドボールに限らず運動を継続するように日頃心掛けていることが顕著でありますが、「楽しむ事(スポーツの基本は楽しく伸び伸びとプレイすることにある)」・「考える事(指導されたことの実践面では自分で判断したプレイを心掛ける)」・「初歩的な礼儀作法(スポーツを通じた人間作りの一環として)」・「学び合う力(友達と教え合ったり、励まし合ったりするなかで)」・「好きになるように(好きこそ物の上手なれ)」等チームの状況に応じいろいろ工夫した指導をしている。

### 4. 部員の確保

社会的少子化傾向の中で部員の確保にはどのチームも苦労がうかがえ、部員集めの対処として、新学期には生徒個々人に「部員募集中」の案内を配布する、入団募集のチラシを各施設に掲示する、地域の広報誌に部紹介記事を掲載する、部員・保護者・地域の方を通して口コミで勧誘をする、など各々チーム事情に合わせた部員確保の取組をしている。

### 5. 地域との係わり

小学生チームの特徴である「地域に根ざした活動」の様子がうかがえます。具体的には、チーム運営面ではハンドボールだけではなく、積極的に地域の行事（お祭り・運動会等）・奉仕作業・ボランティア活動へ保護者を含め一緒に参加している。又、学校とは機会ある毎に校長先生を始め先生方にチーム活動の様子をこまめに報告し、お互いの情報交換をしている。

### 6. 練習場所及び時間

小学校の部活・クラブを中心のチームでは場所（学校の体育館・グランド）の確保が比較的容易なことから練習の回数も多いチームでは、週に４～５回活動されているチームもありますが、スポーツ少年団など地域主導のチームの中には、練習場所（小学校だけでなく中学の体育館利用やその他公共施設）の確保が思うように出来ないチームもあり、月２回や週１回の練習がせいぜいのチームもあります。１回当たりの練習時間は１時間から多いところでは４時間弱となっていますが、２時間を練習時間としているチームが最も多い状況です。

最後になりますが、小学生シリーズに寄稿頂きました各チームの指導者の方々に改めて感謝すると共に、これを機に、小学生を主体としたチームの活動が更に発展し、ハンドボール界全体の普及と拡大が図られることを切望しております。　　　　（機関誌編集委員：近久　紀人）

連載19

# 2001NTSブロックトレーニングの報告

(財)日本ハンドボール協会
NTS運営委員会　委員長　蒲　生　晴　明

今年2年目を迎えたNTSブロックトレーニングは、北信越ブロックを最後に無事終了いたしました。各都道府県関係者の皆様方には数々のご協力をいただきまして御礼申し上げます。また、夏場の忙しい時期にコーディネート・インストラクターをしていただきました日本リーグ関係の監督・コーチ・選手には心から感謝申し上げます。

今回の内容については、前年同様に基礎技術の向上・コーディネーション能力の向上を中心に実施いたしました。各ブロックの指導者並びの選手達には好評であったことがアンケートなどから伺えます。また、数々のご意見をいただきましたことは、NTSが徐々に理解されてきたという証であると受け止めております。ハンドボール界の総意を持って将来のスーパースターを一人でも多く育成していくことが、ハンドボール競技の普及に発展していくものと考えております。

今後も、このNTSをより良きものにするためご指導・ご協力をお願い申し上げます。

12月号は前号に引き続き、北海道ブロックと東海ブロック掲載をいたします。

## 北海道ブロック実施報告書

**1．開催日時**：2001年9月8日(土)・9日(日)

**2．開催場所**：函館大学体育館

**3．対象者**：小学男子、中学男女、高校男女　及びその指導者

**4．NTS委員**：蒲生　晴明　　冨本　栄次　　松　喜美夫

**5．NTS技術委員**：米内山　壮之　　安福　慎太郎　　高田　智史

**6．実施内容**：

体力測定　パスコントロール　グループ戦術
ウォーミングアップ　GKトレーニング　ゲーム
コーディネーション　シュートコントロール　VTR
ボディーコントロール　Man-Man

**7．内容評価**：

（1）良かった点

インストラクターの声がけが大変よく、選手が意欲的に取り組む事が出来た。また、ポイントをわかりやすく説明してくれたので、指導者も得るものが多かった。

また、昨年の反省を生かし、技術委員によって最終選考を行なったので、能力的にある程度そろっていたので、スムーズに指導を行なう事ができた。

（2）問題点・課題等

体育館の確保が困難である。そのために1会場で行なったが、そのお陰で全員が冨本氏に教わったという実感をもつことができた。来年も1会場で実施したい。

底辺拡大の意味では、技術委員が各地区で行ない、ブロックトレーニングは、優秀選手を磨く機会と考える事ができないか。

（3）今後に対しての意見など

NTSの理念が理解され始めているので、今後一層の理解と協力を得られるよう努力と工夫に期待する。

また、継続していく事が何よりも重要と考えるが、一年一年ステップアップしていくことも必要と感じる。その方策を明確にしていかなければならない。

# 東海ブロック実施報告書

報告者：東海ブロック　氏名：杉森　弘幸

| | |
|---|---|
| 1．開催日時：2001年8月25日(土)　13：00～16：30、26日(日)　9：30～16：00 | |
| 2．開催場所：清水市立第二中学体育館（中・高男子）、清水市立商業高校体育館（中・高女子） | |
| 3．対 象 者：選手57名（男中12名、男高17名、女中15名、女高13名）、指導者30名 | |
| 4．ＮＴＳ委員：杉森　弘幸 | |
| 5．ＮＴＳ技術委員：山田　正人 | |
| 6．ＮＴＳ都道府県技術委員：高橋久仁和（静岡）、伊藤諭志（愛知）、飯島昌志（岐阜）、藪内弘志（三重） | |
| 7．実施内容：<br>・ＮＴＳ2001強化指導教本に基づき実技指導<br>・体力測定（30m走、立ち五段跳び、長座投げ、背筋力、握力右・左）<br>・東アジア大会編集ビデオ（ＮＴＳ昼休憩視聴）、その他トレーニング指導ビデオをもとに、講師の解説による勉強会 | |
| 8．内容評価：<br>（1）良かった点<br>・基礎的なメニューで初めてハンドボールを始める生徒に何を教え、どんなメニューを与えるかをよく学べた。<br>・一つ一つの練習も、つながりとしての練習も意図が明確でわかり易かった。<br>・キーパーのトレーニングはワンパターンになりがちであるが、専門のキーパーの方につめや面のつくり方をアドバイスされ、非常に参考になった。<br>・講師陣がとても熱心に丁寧に教えてくれた。<br>・参加選手・指導者の8割以上が「有意義なブロックトレーニングであった」との評価を得た。<br>（2）問題点・課題等<br>・体力測定実施の時間が惜しい。特に、１日参加の中学生はせっかくの機会なのでそこを指導にあててほしい。（指導する側も体力測定の実施がなければ、やりやすいのでは）<br>・高３の場合、受験期だったり将来のことが決まったりしていて大変。むしろ、高２か高３の春にして、将来もハンドボールを続けていけるようなモチベーションを高めるのが良いのでは。<br>・ブロックトレーニング実施上の問題よりむしろ、実施に至るまでの諸連絡の問題や、指導者・保護者の了解を得られる工夫が必要。７～８月の時期は夏休み期間となり、小・中学校の場合、学校（顧問）を通しての連絡はかえって時間がかかった。保護者あての依頼文書を用意して発送してもらう方が、スムーズに行くと思う。<br>（3）今後に対しての意見など<br>・参加指導者の意見として、このようなトレーニングを県でも実施してもらいたいとの要望があった。<br>・小学生は強化につなげるというよりむしろ普及という視点で、ＮＴＳのスタッフが関わってもらえないか。選考して集めるということが前面に出すぎると、現場の指導者や保護者の了解も得られにくくなる。可能であれば、各県やブロック・全国大会などの場へ足を運んでもらい、父兄・指導者への働きかけや指導・普及を通して、ＮＴＳシステムを膨らませてもらいたい。<br>・６～７人程度のスポーツ少年団で行っているところへ、２～３人の推薦を依頼されても、チームを色分けする結果となり、協力しづらい。特に、小学生の活動実数の少ない県では、その団体に協力を求めるのであるから、チーム単位で参加させられないか。<br>・ＮＴＳの協力・依頼は部活の顧問をとおして保護者へ説明されるのが大半であるが、理解してもらいにくい面があった（特に小・中学校）。<br>　よって、旅費半額も理解してもらいにくい。できれば、わかりやすい要項を作成してほしい。あわせて、協会（ＮＴＳ事務局）の方からも、県協会へ残りの旅費負担の依頼をしてもらえないか。 | |

# ・人・物・登・場・～そのとき活躍した人々～

人物登場。今回はこの方にご登場いただきます。



## 萩原　一次さん

**昭和2年11月16日生**

東京都出身。日体専（現・日体大）を卒業後早稲田大学に入学。ＧＫとして学生リーグ中心に大活躍をした。早稲田大学、早稲田大学高等学院にて指導者としてハンドボールに打ち込み、ご退職された現在、稲門ハンドボール倶楽部副会長、稲門体育会常任委員として後輩達に温かい視線をおくられている。

### ハンドボールとの出会いについて教えて下さい。

昭和十六年の春、東京の片隅にあった私の中学に、この年日体専（現日体大）を卒業された体育教師、森孝先生が就任されたのです。当時の中学体育は専ら軍事教練的な授業が主体でしたが、新進気鋭の森先生の授業で「ボールを足で操っているのが蹴球（サッカー）で、それを手で操るのが送球（ハンドボール）なんだ」と当時にしては珍しい球技を教えて下さったのです。手頃なボールを三歩三秒のリズムにあわせパスからシュートへとつなげる醍醐味は格別で、授業中は勿論のこと昼休みの校庭は送球愛好者達の独壇場となったのです。そんなある日森先生が「送球をやりたい者は放課後グランドへ集まれ」とのこと。集まってびっくり。私達の他に上級生の猛者達までが顔を揃えていたのです。この時を契機に我が智山中学送球部が誕生の運びとなり、部の一員となった私のハンドボール人生が始まったのです。

### やはり「先生」との出会いは大きいですね。

本来森先生は剣道が専門分野で剣道部の指導も然る事ながら創部間もない送球部まで、余暇を惜しまず御指導して下さいました。一学期も間もなく終わろうとする頃、送球部の意欲的練習にほだされた先生が「お前達に是非日体送球部の練習風景を見学させたい」といわれ、私達を世田谷の深沢へと案内して下さったのです。広々としたグランドでは逞しい部員の人達が三々五々に分れて練習中で、特にフォワードの選手がゴール目掛けて矢の様なシュートをビュンビュンと投げ、キーパーがバネの様な跳躍で身を挺してボールを防ぐ等の光景は、私達想像以上の技とその練習量で驚きやら感動で暫し呆然としたものです。暫くして先生が「あの一段と強肩でネットが張り裂けんばかりのシュートしている豪快な選手が高嶋君で日本一のフォワードで、あのスポンジの様なキーパーが島田君で日本一のキーパーだぞ」と全日本クラスの方々の名前やポジション、そして役割迄細かく説明して下さったのです。以後我が部の練習も日体式に厳しくなりチーム力もそれなりに整った頃に、高嶋主将率いる日体主力選手の方々が、我が中学に迄来られ手取り御指導して下さるとともに、日体一年生チームを試みる機会迄再三作って下さったのです。今から五十数年も前のことですが、この時が私と高嶋先生（前日本ハンドボール協会理事長、現日本体育大学同窓会会長）との出会いで、日本一の選手に指導を受けた感激と誇りが私のハンドボール人生に大きな希望と夢を授けてくれました。

### そして初の公式戦を迎えます。

翌昭和十七年、待ちに待った公式戦です。不肖私もレギュラーメンバー（フォワードセンター）の一員として闘志を抱いたものでした。そして六月、神宮外苑競技場（現国立競技場）で行なわれた第六回関東選手権中学の部に出場、決勝戦では青山師範（学芸大）と対戦、２対１の少差で無念の涙を流したのです。又、十月には第二回全日本中学選手権（現・インターハイ）に出場、一回戦で天王寺（大阪）と対戦し５対０の大差で敗れ、大阪地域のレベルの高さを痛感したのです。ちなみにこの大会の決勝対決は大阪の豊中と天王寺で、豊中が接戦を制し優勝しました。昭和十八年、捲土重来を誓い合った私達に暗雲が漂い始めたのです。それは戦況の悪化に伴った国策で、恩師森先生が戦場へと出陣され、クラブ活動は勿論のことスポーツ界の公式競技は全面禁止条例が発令されたのです。従って我が国のスポーツ界の活動は終戦を迎える迄の二年間空白状態となったのです。

## ほろ苦い青春時代になってしまいましたね。

ええ、しかし私のハンドボールに懸ける情熱と日体への憧れは捨て切れず、昭和二十年春、日本体育専門学校（旧制度）へ進学します。翌昭和二十一年春、学校再開の通達に伴って日体は世田谷を離れ霞ヶ浦の一角阿見町（旧予科練跡地）へ移転、授業再開に踏み切ったのです。二年間の休眠状態から開放された私達は食料難にも拘らず意欲的練習に明け暮れたのです。中学時代のポジションがＦＷであった私に手厳しいポジションＧＫを命じたのが主将の中西先輩（旧福岡県ハンドボール協会理事長）で、連日火の出る様な特訓に温情こもる励ましが私の新ポジション習得の支えとなったのです。そして六月、戦後の復活を目指す関東学生リーグが開幕したのです。試合の度に土浦—上野間の汽車遠征が苦労の種で、他校に比べハンデもありましたが、春は同率とはいえ優勝で飾り、秋は全勝の明治に屈し二位に甘んじたのです。これを契機に私もＧＫ人生専念を決意したのです。昭和二十二年、学生時代最後の年を迎え、チームの為にも万全を期して臨んだリーグ戦も、春秋ともに強敵早稲田の軍門に降り無念遣る方ない思いでした。

## そして、その早稲田で再出発を決意されました。

ええ、私に学生界での再出発を進めて下さったのが、宿敵早稲田の闘将小西先輩（旧大阪ハンドボール協会会長）で「萩さん卒業したらどうするのや」の一言が学生界残留を希望する私の心を動かし、早稲田進学を決意したのです。昭和二十三年春、日体を卒業した私は早大チームの一員として新たなハンドボール人生に挑んだのです。しかしこの行動（移籍）は当時ハンドボール界にあっては異例のことで、日体は勿論のこと他校ハンドボール関係者達に数々の話題を投げ掛けたのですが、私のハンドボールに懸ける情熱が関係者各位に理解され、有意に早稲田時代を過すことが出来たのです。春秋リーグを含め早慶、早関両定期戦、そして東西学生対抗戦や国体等で競い合った数多くのライバルが良き友となり、今なお親交を深めているのも永かった私のハンドボール人生があればこそと思うのです。昭和二十六年春、早稲田卒業後の私は体育教師としての道を選び、母校体育局の助手を経て昭和三十年、早稲田大学高等学院に奉職し、授業と部活を股に掛けハンドボール指導に明け暮れくれる傍ら、恩師徳永・高嶋両先生が率いる社会人チーム東京クラブに所属し国体等にも出場し現役活動も続けていたのですが、昭和三十八年の11人制全廃を機に現役活動に別れを告げ、７人制の習得に専念することになったのです。

## 監督生活で思い出に残っていることは何ですか？

そうですね、思い出に残る試合は、昭和三十五年、11人制時代に来日したルーマニアチーム（前年世界選手権第二位）と昭和四十二年、７人制一本化後に初来日した西ドイツ選抜チームとの国際親善試合で、共に万全を期し全早稲田チームを編成しての対戦となったのが、両試合とも技術を含め体格とパワーの違いをまざまざと見せられ、世界レベルの高さを痛感したものでした。又高校チーム（早大学院）を率いて昭和四十七年、巨漢蒲生選手を擁する強豪中大付属高校と決勝対決になり、蒲生徹底マークが功を奏し接戦の末都大会初優勝を果し、第二位の中大付属とともに第二十三回インターハイ（山形）に出場したのです。初体験のプレッシャーもあって善戦及ばず敗退した我がチームに比べ、中大付属の活躍は目覚しく見事全国制覇を成し遂げたのです。その原動力が巨漢蒲生選手で、数年後には我が国ハンドボール界を担う大型選手に成長し、昭和五十一年のモントリオールから昭和五十九年のロサンゼルス迄の長期間、全日本代表選手としてオリンピック出場を果したのです。高校・大学・社会人を通じて私の脳裏には彼の健闘が深く刻まれています。平成十年、四十三年間の職務を終えましたが半世紀に及ぶハンドボール人生が私の支えとなっていたことに深く感謝している次第です。

**どうもありがとうございました。次回もお楽しみに。**

# 第26回日本ハンドボールリーグ日程表(後期分)

| 週 | 月日 | 開催地都道府県 | 会場 | 1部男子 時間 | 1部男子 組合せ | 1部女子 時間 | 1部女子 組合せ | 2部男子 時間 | 2部男子 組合せ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 2002年 | 広島県 | 東区スポーツセンター | | | 18:30 | メイプルレッズvsブラザー | | |
| | 1月10日(木) | 山口県 | 徳山市総合スポーツセンター | | | | | 18:00 | トクヤマvsインテックス21 |
| | 1月12日(土) | 佐賀県 | 佐賀県総合体育館 | 15:00 | アラコ九州vs本田技研 | | | | |
| | | 熊本県 | 山鹿市総合体育館 | | | 13:30 | オムロンvs北國銀行 | | |
| | | 鹿児島県 | 国分市総合体育館 | | | 14:00 | ソニーvs立山アルミ | | |
| | 1月13日(日) | 愛知県 | 知立市福祉体育館 | 14:00 | トヨタ車体vs大同特殊鋼 | | | | |
| | | | 半田市民体育館 | | | 13:30 | ブラザーvs日立栃木 | | |
| | | 山梨県 | 小瀬スポーツ公園体育館 | | | 18:00 | シャトレーゼvsムネカタ | | |
| | | 宮崎県 | 宮崎市総合体育館 | 13:50 | 本田技研vs北陸電力 | | | 12:00 | トヨタ自動車vs豊田合成 |
| | | 熊本県 | 熊本県立総合体育館 | | | 14:00 | オムロンvs立山アルミ | | |
| | | 鹿児島県 | 国分市総合体育館 | | | 13:00 | ソニーvs北國銀行 | | |
| | 1月14日(月) | 東京都 | 東京体育館 | 17:00 | 大崎電気vs湧永製薬 | | | 15:00 | HC東京vs大阪ガス |
| 8 | 1月19日(土) | 富山県 | 氷見市ふれあいスポーツセンター | | | 12:30 | 北國銀行vsブラザー | | |
| | | | | | | 14:30 | 立山アルミvsメイプルレッズ | | |
| | | 佐賀県 | 佐賀県総合体育館 | 15:00 | アラコ九州vs北陸電力 | | | | |
| | 1月20日(日) | 茨城県 | 常総運動公園総合体育館 | | | 14:00 | シャトレーゼvs日立栃木 | | |
| | | 富山県 | 氷見市ふれあいスポーツセンター | | | 11:00 | 北國銀行vsメイプルレッズ | | |
| | | | | | | 13:00 | 立山アルミvsブラザー | | |
| | | 三重県 | 鈴鹿市体育館 | 14:00 | 本田技研vs大同特殊鋼 | | | | |
| | | 香川県 | 香川町総合体育館 | 13:30 | 湧永製薬vsトヨタ車体 | | | | |
| | | 鹿児島県 | 名瀬市総合体育館 | | | 15:00 | ソニーvsオムロン | | |
| 9 | 1月23日(水) | 山口県 | 徳山市総合スポーツセンター | | | | | 18:00 | トクヤマvs豊田合成 |
| | 1月24日(木) | 愛知県 | ブラザー工業体育館 | | | 18:30 | ブラザーvsソニー | | |
| | 1月26日(土) | 栃木県 | 栃木市総合体育館 | | | 14:00 | 日立栃木vsメイプルレッズ | | |
| | | 愛知県 | 枇杷島スポーツセンター | 16:00 | 大同特殊鋼vs北陸電力 | | | 14:00 | トヨタ自動車vs大阪ガス |
| | | | 刈谷市体育館 | 15:00 | トヨタ車体vsアラコ九州 | | | | |
| | | 三重県 | 四日市市中央緑地体育館 | 14:00 | 本田技研vs大崎電気 | | | | |
| | | 富山県 | 三協アルミスポーツセンター"サンアリーナ" | | | 14:00 | 立山アルミvsムネカタ | | |
| | | 鹿児島県 | 出水市総合体育館 | | | 15:00 | ソニーvsシャトレーゼ | | |
| | 1月27日(日) | 石川県 | 金沢市総合体育館 | | | 15:00 | 北國銀行vsムネカタ | | |
| | | 熊本県 | 水俣市総合体育館 | 14:00 | 本田熊本vs湧永製薬 | 13:00 | オムロンvsシャトレーゼ | | |
| 10 | 1月29日(火) | 愛知県 | ブラザー工業体育館 | | | 18:30 | ブラザーvsムネカタ | | |
| | 1月30日(水) | 愛知県 | 大同特殊鋼星崎工場体育館 | 18:30 | 大同特殊鋼vs本田熊本 | | | | |
| | 2月1日(金) | 広島県 | 東区スポーツセンター | 18:30 | 湧永製薬vs大崎電気 | | | | |
| | 2月2日(土) | 東京都 | 大田区体育館 | | | 13:00 | ムネカタvs日立栃木 | 15:00 | HC東京vsトヨタ自動車 |
| | | 石川県 | 小松総合体育館 | | | 13:00 | 立山アルミvsソニー | | |
| | | | | | | 14:50 | 北國銀行vsオムロン | | |
| | | 福井県 | 北陸電力福井体育館フレア | | | | | 15:00 | インテックス21vs豊田合成 |
| | | 三重県 | 鈴鹿市体育館 | 15:00 | 本田技研vsアラコ九州 | | | | |
| | | 山口県 | 徳山市総合スポーツセンター | | | | | 14:00 | トクヤマvs大阪ガス |
| | | 宮崎県 | 小林市市民体育館 | 18:00 | トヨタ車体vs本田熊本 | | | | |
| | 2月3日(日) | 愛知県 | 枇杷島スポーツセンター | 18:00 | 大同特殊鋼vsアラコ九州 | 14:00 | ブラザーvsシャトレーゼ | | |
| | | 石川県 | 小松総合体育館 | | | 13:00 | 立山アルミvsオムロン | | |
| | | | | | | 14:50 | 北國銀行vsソニー | | |
| 11 | 2月6日(水) | 愛知県 | 知立市福祉体育館 | 18:30 | トヨタ車体vs湧永製薬 | | | | |
| | 2月7日(木) | 広島県 | 東区スポーツセンター | | | 18:30 | メイプルレッズvs日立栃木 | | |
| | 2月9日(土) | 埼玉県 | 八潮市立鶴ヶ曽根体育館 | 14:30 | 大崎電気vs北陸電気 | | | | |
| | | 東京都 | 大田区体育館 | | | | | 14:00 | HC東京vsインテックス21 |
| | | 福島県 | 本宮町総合体育館 | | | 14:00 | ムネカタvsオムロン | | |

# 第26回日本ハンドボールリーグ日程表（後期分）

| 週 | 月日 | 開催地都道府県 | 会場 | 1部男子 時間 | 1部男子 組合せ | 1部女子 時間 | 1部女子 組合せ | 2部男子 時間 | 2部男子 組合せ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 2月9日(土) | 広島県 | 湧永満之記念体育館 | 15:00 | 湧永製薬vsアラコ九州 | 13:00 | メイプルレッズvs立山アルミ | | |
| | | 熊本県 | 菊池市総合体育館 | 15:10 | 本田熊本vs本田技研 | | | 13:30 | トヨタ自動車vsトクヤマ |
| | 2月10日(日) | 福島県 | 本宮町総合体育館 | | | 14:00 | ムネカタvsソニー | | |
| | | 愛知県 | 東海市民体育館 | 15:00 | 大同特殊鋼vsトヨタ車体 | 13:00 | ブラザーvs北國銀行 | | |
| | 2月11日(月) | 栃木県 | 栃木市総合体育館 | | | 15:00 | 日立栃木vsシャトレーゼ | | |
| 12 | 2月13日(水) | 三重県 | 本田技研健保体育館 | 18:00 | 本田技研vs湧永製薬 | | | | |
| | 2月16日(土) | 福島県 | 川俣町総合体育館 | | | 14:00 | 日立栃木vs北國銀行 | | |
| | | | | | | 15:45 | ムネカタvs立山アルミ | | |
| | | 東京都 | 駒沢体育館 | | | | | 18:00 | ＨＣ東京vsトクヤマ |
| | | 兵庫県 | 大阪ガス今津総合グランド | | | | | 14:00 | 大阪ガスvsインテックス21 |
| | | 熊本県 | 人吉市スポーツパレス | | | 15:30 | オムロンvsブラザー | | |
| | 2月17日(日) | 福島県 | 本宮町総合体育館 | | | 12:00 | 日立栃木vs立山アルミ | | |
| | | | | | | 13:45 | ムネカタvs北國銀行 | | |
| | | 愛知県 | 中村スポーツセンター | 14:00 | 大同特殊鋼vs大崎電気 | | | | |
| | | 三重県 | 四日市市中央緑地体育館 | 14:00 | 本田技研vsトヨタ車体 | | | | |
| | | 広島県 | 東区スポーツセンター | 13:00 | 湧永製薬vs北陸電力 | 15:00 | メイプルレッズvsシャトレーゼ | | |
| | | 佐賀県 | アラコ九州クレインアリーナ | 15:00 | アラコ九州vs本田熊本 | | | | |
| | | 鹿児島県 | 隼人町営体育館 | | | 13:00 | ソニーvsブラザー | | |
| 13 | 2月21日(木) | 愛知県 | 知立市福祉体育館 | 18:30 | トヨタ車体vs大崎電気 | | | | |
| | | 広島県 | 東区スポーツセンター | | | 18:30 | メイプルレッズvsムネカタ | | |
| | 2月22日(金) | 愛知県 | 豊田合成㈱健康管理センター | | | | | 19:00 | 豊田合成vsトヨタ自動車 |
| | 2月23日(土) | 栃木県 | 栃木市総合体育館 | | | 13:00 | シャトレーゼvsソニー | | |
| | | | | | | 14:50 | 日立栃木vsオムロン | | |
| | | 兵庫県 | 大阪ガス今津総合グランド | | | | | 14:00 | 大阪ガスvsＨＣ東京 |
| | 2月24日(日) | 栃木県 | 栃木市総合体育館 | | | 13:00 | シャトレーゼvsオムロン | | |
| | | | | | | 14:50 | 日立栃木vsソニー | | |
| | | 富山県 | 富山市総合体育館 | | | 14:00 | 立山アルミvs北國銀行 | | |
| | | 福井県 | 福井県営体育館 | 15:00 | 北陸電力vs本田熊本 | | | 13:00 | インテックス21vsトクヤマ |
| | | 愛知県 | 枇杷島スポーツセンター | 18:00 | 大同特殊鋼vs本田技研 | 14:00 | ブラザーvsメイプルレッズ | | |
| 14 | 2月27日(水) | 愛知県 | 枇杷島スポーツセンター | | | 18:30 | ブラザーvsオムロン | | |
| | 3月2日(土) | 埼玉県 | 三郷市総合体育館 | 14:30 | 大崎電気vsアラコ九州 | | | | |
| | | 石川県 | 金沢市総合体育館 | | | 13:00 | 北國銀行vsシャトレーゼ | | |
| | | 兵庫県 | 大阪ガス今津総合グランド | | | | | 14:00 | 大阪ガスvs豊田合成 |
| | | 広島県 | 東区スポーツセンター | 14:00 | 湧永製薬vs大同特殊鋼 | | | | |
| | | 熊本県 | 松橋町体育文化センター | 17:10 | 本田熊本vsトヨタ車体 | 15:30 | オムロンvsメイプルレッズ | | |
| | 3月3日(日) | 栃木県 | 栃木市総合体育館 | | | 14:00 | 日立栃木vsムネカタ | | |
| | | 富山県 | 八尾スポーツアリーナ | | | 14:30 | 立山アルミvsシャトレーゼ | 12:30 | インテックス21vsトヨタ自動車 |
| | | 三重県 | 鈴鹿市体育館 | 14:00 | 本田技研vs北陸電力 | | | | |
| | | 鹿児島県 | ソニーセミコンダクタ九州㈱体育館 | | | 13:00 | ソニーvsメイプルレッズ | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 入替戦 | 3月15日(金) | 東京都 | 駒沢体育館 | 16:00 | 男子入替戦第1日（1部8位vs2部1位） |
| | | | | 18:00 | 男子入替戦第1日（1部7位vs2部2位） |
| | 3月16日(土) | | | 10:30 | 男子入替戦第2日（1部7位vs2部2位） |
| | | | | 12:30 | 男子入替戦第2日（1部8位vs2部1位） |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| プレーオフ | 3月16日(土) | 東京都 | 駒沢体育館 | 15:00 | 男子プレーオフ準決勝 |
| | | | | 17:00 | 女子プレーオフ準決勝 |
| | 3月17日(日) | | | 13:00 | 男子プレーオフ決勝 |
| | | | | 15:30 | 女子プレーオフ決勝 |

# 新競技規則の解釈

## 各国協会からの質問に対するIHF／PRCの解答

## 1. 第2条

2：10＋競技規則解釈3

インプレー中であっても競技の中断中であっても、チームがボールを所持していれば、チームタイムアウトを請求することができる。競技の中断中でボールを所持しているとは、そのチームがスローオフやゴールキーパースロー、スローイン、フリースロー、7mスローを与えられているときを意味する。インプレー中にボールを所持しているとは、プレーヤーがボールをコントロールしている、あるいはプレーヤーが味方のプレーヤーにボールをパスしている状態を指す。

タイムキーパーは、チームタイムアウトが正当な時期に請求されたと判断すれば、即座に笛を吹かなければならない。

レフェリーはジェスチャー16を用いて3回短く笛を吹き、片腕を伸ばして請求したチームを指してチームタイムアウトを認める（ジェスチャー17は不要である)。

2：8

（2分間の退場を示す）ジェスチャー14は、タイムアウトを取った後に示さなければならない。これを明記しておくこと。

## 2. 第3条

3：2

少なくとも1個の予備のボールを用意しなければならないが、レフェリーは2個以上の予備を認めてよい。予備のボールはオフィシャル席に置いておかなければならない。レフェリーは執拗なボール交換の要求を受け入れてはならない。

## 3. 第4条

4：9

鼻部用プロテクター：競技規則が改正され、特に禁止されているものに、頭部用プロテクターと顔面用マスクがある。ここで「マスク」とは顔面の大部分を被うようなものを指す。鼻部用プロテクターは極めて小さく、鼻の部分だけを被っているに過ぎない。したがって、このような鼻部用プロテクターを許可している。

4：10

出血したプレーヤー：プレーヤーが止血し、そして可能であればユニホームを着替えた後は、特別な許可や指導を受けずにコートに再び入ることができる。言い換えると、プレーヤーは自己の責任において入場するのである。しかしながら、レフェリーはプレーヤーが適切な止血処置をしないでコートに戻った場合を見逃してはならず、この場合には罰則を段階的に適用しなければならない。

4：11

負傷が発生し、負傷者を救護するために「コートへの入場許可」をレフェリーが与えたとき、許可されるのは一度に（参加資格のある）2名までである。この2名はチーム役員でもプレーヤーでもよい。

コートへの入場については自己の責任において行う。コートへ入場する人数が多すぎたときには、罰則を与えなければならない。これがチーム役員であった場合には、競技規則4：2の第2段落に則り、スポーツマンシップに反する行為として罰則を与えなければならない。プレーヤーであった場合には、競技規則4：6の第1段落に則り、不正入場として罰則を与えなければならない（注：競技規則4：5に類似した状況と考えて、「余計に」コートに入場したものが複数名であった場合には、最初に違反した者にのみ罰則を与えなければならない)。

チームがこの新競技規則の適用に慣れるまでは、穏当に対処しなければならない。すなわち初期の段階では、罰則ではなく、違反の回避に重点を置かなければならない。「コートへの入場許可」を与えたときには、コートレフェリーは速やかに交代地域の方に近づいて、負傷した方のチームの2名だけに入場を許可したことを両チームに気付かせるよう配慮しなければならない。タイムアウトの後、レフェリーは競技を再開する前に、すべてのプレーヤーが元の正しい位置にいることを確認しなければならない。

## 4. 第6条

ゴールキーパースローは、スローを行うまで「インプレーではない」という意味において、他の「各種スロー」と同様に扱う。したがって、例えば、インプレーとなるまで別のス

ローが与えられることはない。(例) ゴールキーパースローが行われる前に、タイムキーパーが不正交代の笛を吹いた場合は、不正交代に対する罰則を与えた後に、ゴールキーパースローで競技を再開するのが正しい方法である。

## 5. 第7条

競技規則解釈4（パッシブプレーの説明）

予告合図を出した後（パッシブプレーの兆候の見えるチームがフリースローを行った後の場合も)、得点を狙う状況につながるべき組立て局面を完遂させる機会をチームに与えなければならない。この組立て局面はパスの最大回数を決めることによって規定されるものではない。レフェリーには、正しい判定を行うために十分な戦術的知識を会得する義務がある。ガイドラインとして、少なくとも5秒間の組立て局面を認めると記載されている（この秒数はトップレベルに対するものであり、レベルが下がるにつれて秒数を調節しなければならない)。明らかにテンポが上がらなければならない。

忠告としてであるが、予告合図を出した後、攻撃側チームに初めてのフリースローを与えたときには、短くかつ明瞭に再び予告合図を出さなければならない。

パッシブプレーの予告合図は攻撃が完了するまで有効である。すなわちこれは、攻撃側チームが得点し損ねた後に再度ボールを所持した場合（リバウンド、例えば7mスローを失敗した後の場合も)、このチームは引き続き予告合図の効力下に置かれることを意味している。

## 6. 第8条

8：7【注】

唾を吐くこと：人に「唾を吐くこと」とは、狙った人に唾が実際に「命中する」のをレフェリーが観察したという意味である。

## 7. 第10条

10：3

スローオフを行うプレーヤーの味方のプレーヤーは、レフェリーが笛を吹けば、スローが行われる前であってもすぐにセンターラインを越えることができると、この条項に明記されている。次のような状況が生じる可能性がある。

(a) 笛の後に攻撃側チームのプレーヤーがラインを走り越え、スローオフが行われるまでの間に相手に突進してぶつかった場合。

(b) 攻撃側プレーヤーが、ラインを走り越えて行き、スローオフが行われるまでの間に相手に引き倒された場合。

レフェリーはタイムアウトを取って違反したプレーヤーに適切な罰則を与えなければならない。その後、すべてのプレーヤーを正しい位置につかせてから、スローオフを再度行う。

## 8. 第14条

競技規則解釈8：「明らかな得点チャンス」の定義

ここで、さらなる説明を主に必要としているのは、第3のシナリオ（競技規則解釈8の（3)）である。

まだボールを持っていないプレーヤーへの違反に対して7mスローが与えられうるという、根本的に重要な改正ではあるが、この意図は実際に大きな変更を加えようとしたものではない、ということを知っておかなければならない。

明らかな得点チャンスに対する従来からの基準（第1のシナリオ）は、ボールがまだ完全に渡っていないという点だけを除いて第3のシナリオにも該当する。したがって、レフェリーは次のように判定しなければならない。

1. ボールがパスされたときに、(パスを向けられた) 味方のプレーヤーがなおフリーの状態にあり、妨害されていない（すなわち、まだつかまれたり、押されたりしていない)。
2. ボールは明らかにこの味方のプレーヤーの方に向かっている。
3. このプレーヤーは身体をコントロールしており、そしてボールが来るとすぐにシュートする好機を得られる位置にいる。
4. このプレーヤーはシュートしようとする明らかな意志を示さなければならない。
5. この瞬間まで違反されていなかった (パスを向けられた) プレーヤーが、次の瞬間には横や後方（またはゴールエリアの中）から違反され、もし違反されなければ間違いなくボールをキャッチして明らかな得点チャンスを得たはずである。

このような状況のすべてが満たされた場合に限り、レフェリーは7mスローを与えなければならない。

もしフローターのプレーヤーが、ゴールエリアライン付近にいる味方のプレーヤーがつかまれていることに気付き、ボールをパスする随分前から違反があるにもかかわらず7mスローを期待して、単に「おまけ」を狙ってボールをパスした場合、レフェリーは決して7mスローを判定してはならない。

## 9. 第16条

16：1【注】

個々のプレーヤーに与える警告は1回まで、チーム内でプレーヤーに与える警告は合計3回まで、そしてチーム内で役員に与える警告は合計1回までなければならないと、ここで明確に述べている。

コート上でのプレーヤーの違反も交代地域におけるプレーヤーの違反も、段階罰は別個ではなくて合算される。この意味において、例えば交代地域にいる（たった1名ではなく）3名までのプレーヤーに警告を与えることも可能である。

16：3d

チーム役員が交代地域で2分間の退場となったとき、その役員は交代地域にとどまることが許される。その役員はこの退場時間中、通常の任務を果たすことができる。しかし、チームはコート上のプレーヤーを2分間1名減らさなければならない。

16：12

この条項における新しい例外規定は、最初の罰則の後に「2つ目」の違反が起こり、それがしかも競技の再開前に起こった場合にのみ適用する、ということを肝に銘じておくことが大切である。

コート上のプレーヤーを4分間減らす規定は、この条項に記載された4つの特例に限って適用されるのである。他の状況を「編み出して」はならない。同様に、この条項を幾つか組合わせて適用し、結果として退場時間が4分間を越えるような状況を「編み出して」はならない。4分間減らすとは、チームがコート上のプレーヤーを4分間1名減らすことを意味する（2名のプレーヤーを2分間減らすことではない）。

同一の状況において与えられた2つの罰則のうちの1つが追放であった（そしてもう1つが2分間の退場か失格であった）場合には、チームは残りの競技の間、プレーヤーを1名減らすことになる。

概要：（a）2分間の退場＋スポーツマンシップに反する行為（2分間）→4分間
（b）失格＋スポーツマンシップに反する行為（2分間）→4分間
（c）2分間の退場＋著しくスポーツマンシップに反する行為→4分間
（d）失格＋著しくスポーツマンシップに反する行為→4分間

(b) や (d) の状況において、最初の失格は「直接」の失格の場合もあるし、3回目の2分間の退場の場合もある。

すべての罰則は、違反したプレーヤー個人に対して適用される。例えば (a) の状況において、この罰則がそのプレーヤーにとって2回目と3回目の2分間の退場に相当する場合には、このプレーヤーは失格となる。しかし、チームは規定のとおり4分間プレーヤーを減らすことになる。

同一の状況において（1つ目の罰則をすでに通常の方法で示した後に）2つ目の罰則を与えたとき、1名のレフェリーはオフィシャル席に行き、タイムキーパーとスコアラー、そして当該チームの「チーム責任者」に追加の罰則について知らせる。

次の状況と上述の (a)、(b)、(c)、(d) に該当する状況との重大な違いに注意して欲しい。プレーヤーが2分間（あるいは4分間）の退場となった直後ではあるものの、競技が再開された後にそのプレーヤーがさらに違反した場合には、(a)?(d) という例外規定ではなくて、通常の規定が適用される。つまり、このプレーヤーに対して追加の罰則が即座に適用され、チームはコート上のプレーヤーをさらにもう1名減らさなければならないということなのである。

【例1】競技時間が10分0秒のときにプレーヤーが2分間の退場となった。そして競技が再開され、11分0秒のときに、そのプレーヤーは（スポーツマンシップに反する行為のために、あるいは退場時間の満了前にコートへ入場したために）さらに2分間の退場となった。このプレーヤーは追加の退場を課せられて、13分0秒まで退場となるが、追加の退場時間を埋め合わせるべく11分0秒から12分0秒までの1分間、チームはさらにもう1名のプレーヤーを減らさなければならない。

【例2】競技時間が20分0秒のときにプレーヤーが2分間の退場となった。そのプレーヤーは競技の再開前に抗議をし、さらに2分間の退場を追加されたため、24分0秒までコートに戻れなくなった。競技の再開後21分0秒のときにこのプレーヤーは（さらに抗議したため、あるいはコートに入場したため）さらに2分間の退場となった。これにより、このプレーヤーは失格となるだけでなく、21分0秒から23分0秒までの2分間、コート上のプレーヤーをさらにもう1名減らすことになる。この結果、チームのプレーヤーは23分0秒まで2名少なく、24分0秒まで1名少ないことになる。

平成11年度から
新会員登録制度
スタート！

# がんばれ ハンドボール 10万人会




## ●HANDBALL FAMILY

| | 年会費 | 主な特典 |
|---|---|---|
| グランド会員 | 10.000円 | 日本協会機関誌（年11回）<br>日本協会主催大会無料パス<br>会員バッジ<br>日本協会認定グッズの割引 |
| ファミリー会員 | 3.000円 | 日本協会主催大会無料ペア券1枚<br>会員バッジ<br>日本協会認定グッズの割引 |

### ■登録増によるメリット

● メジャースポーツとして認知
● 登録金の増収

● スポンサーがつく
● 全員参加意識の高揚

**財源確保**

各種事業への活用と充実
○ 小・中学校の普及
○ ビーチ・マスターズ・車いすハンドの支援
○ ミニハンドボール競技の導入
○ ジュニア層の重点強化
○ 各大会の補助金アップ
○ 国際大会の招致
○ 一貫指導体制の確立

## 団結しよう！
### ハンドボール・ファミリー

少子化の影響などにより登録人口の減少傾向が各スポーツ界の大きな悩みになっています。昨今の経済不況も深刻さを増すばかりです。

今こそハンドボール・ファミリーが団結する時です。皆さんが自分のチームを愛するように、日本ハンドボールを愛して下さい。登録人口が増え、財源が大きくなれば、小・中学校の普及はもとより、ビーチ・マスターズ・車椅子ハンドボールの支援、ミニハンドボールの普及、また強化の根幹となるジュニア層の重点強化、そして各大会の補助金アップや国際大会の招致などにつながります。

皆さん1人ひとりが主役です。選手、審判、役員、OB、OGなどに限らず新たなサポーターも募り、全員参加のもとでメジャー化を図り、ハンドボール文化を構築しましょう。

### グランド会員、ファミリー会員への入会方法

所定の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい（郵送の場合は切手は必要ありません）。後日、日本ハンドボール協会から会員バッジなどをお送りします。年会費はご指定を受けた金融機関の口座から引き落としさせていただきます（ほとんどすべての金融機関でご利用できます）。

なお、申し込み用紙は、日本協会、各都道府県協会、または各全国連盟事務局にご請求下さい。

**財団法人　日本ハンドボール協会**

〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1　岸記念体育館内
TEL.03-3481-2361　FAX.03-3481-2367
http://www.handball.or.jp/

審判委員会だより

# 審判審査指導委員会報告

審判審査指導委員長　福田英明

期　日　平成13年9月30日（日）
会　場　名古屋市枇杷島スポーツセンター会議室
出席者　福田・藤本・川島・島田・越田・斉藤部長
花野総務委員長

## 1. 平成13年度公認A・B級審査結果

| | A級 | B級 |
|---|---|---|
| 受験申請者 | 19 | 46 |
| 書類不備者 | 0 | 0 |
| 欠席者 | 7 | 2 |
| 実技不合格者 | 2 | 12 |
| 筆記不合格者 | 0 | 0 |
| 体力不合格者 | 1 | ／ |
| 研修手帳未提出 | 0 | ／ |
| 合格者数 | 10 | 32 |

・A級の欠席者は、教員の学期末業務のため。
・B級の実技不合格者に関しては、レベル低下が目立った。
・A級受験者が、公務等により受検できなかった場合、次年度改めて申請せずとも受検できるよう救済処置を設けることとした。

## 2. JHAレフェリーコース

「前期」
期　日　8月11日～13日
会　場　甲府市小瀬スポーツ公園体育館
指導者　越田・島田審査指導委員
モデル　男子高校生（デューパー杯争奪戦）
参加者　14名（男子7名・女子7名）
申請した全員が参加し、予定された内容を順調に消化。

「後期」
期　日　平成14年3月27日～29日
会　場　名古屋市　愛知県体育館で開催予定。

## 3. 第53回全日本総合選手権大会審判員について

以下の審判員をノミネートした。
（男子）仲田　稔・植村　彰　　家永昌樹・福島亮一
仲里　貢・中地健三　　小林一夫・土屋雅男
中舘　豊・多田和生（補欠）
（女子）浜田浩和・小笠原久郎　　藤井俊朗・大熨嘉彦
浜野大助・阿部羅大造　　山口弘夫・岩上浩一郎
浦川寿生・石崎章弘（補欠）
＊女子審判員の育成は勿論考えているが、本年度については見送ることとした。

## 4. インターハイにおける審判評価について

本年度の評価の結果、B級合格点より低い評価点の者が出た。高体連ではいま年齢的な過渡期と見ている。今年初めて全国大会を経験するという者が40％を占める。しかし誰にも初めての経験はあるにしても、そのことはプレーヤーには関係のないこと。何時でもコントロールされた笛が吹けなければならない。そのことは常に伝えてはいるのだが。各ブロック審判部長の推薦姿勢、また全国大会に参加する審判員の教育方法を考えなければならない。

本年度広島で開催したトップレフェリー研修会には、斉藤部長は全国大会参加審判員全員に開催通知を出した。それは、この研修会への参加が全国大会審判員の絶対条件と持っていきたいとの考えが部長にはある。しかし、まだその環境を作り出せてはいない。

本年度のインターハイでの審判研修会は、チーム監督も集めたもので実のある研修会であったと聞いている。しかしながら、そこで研修した事柄が実際の笛に生きてこなかったと嘆いた監督も多かったと聞く。

となると、これは審判員の個の質であろうか。各ブロック審判長の指導力が問われることになる。

今後の指導に関しては、「個人評価指導表」を作成し、試合終了後指導事項並びに点数評価を示して、その後の参考とさせることとする。また、視聴覚教育の導入も促進し、審判部にて器材を保有し、各種大会で充分活用する体制を作るという部長の考えが示された。

## 5. 上級審判審査受検に関して

現在B級を受検するためには、申請時までに30試合（ブロック大会経験を含む）、A級は50試合（全国大会ブロック大会10試合以上経験を含む）を義務づけている。しかしながら、この条件が全国大会及びブロック大会のレフェリーレベルを低下させていないか。すなわち、それらの大会が上級を受検する審判員の集合体になり、資格を取得したフレッシュで有能な審判員の参加場所がなくなることにならないか。したがって条件を付けずに受検させることも考えられるのではないか。という考えが部長より示された。

これについて意見を出し合ったが、審判員の質を向上させる第一の要素は、経験度数の豊富さであり、この条件を削除することは、経験度数を増やそうとする積極的な姿勢に水を差すことになりかねないと考えられる。したがって、試合数条件は従来通りとし、A級の全国大会ブロック大会10試合以上経験することという条件を、「ブロック大会以上の大会を経験していること」とする。

## 6. 日本リーグへの新ルール適用準備について

この新ルール適用に関しての講習会は、9月30日現在で6ブロックが完了し、10月の開幕に向けて問題ない環境を作ることができる状況である。




## 平成13年9月度常務理事会

［日　時］平成13年9月8日（土）
11：00～15：00
［場　所］三陽商会会議室
［出席者］山下副会長、岩井特任副会長、大西専務理事、常務理事9名、理事2名、参事2名、監事2名

### 議題

1. 日本協会委員会登録について
未登録の人は至急処理するよう要請した。
2. がんばれ10万人会現状報告
がんばれハンドボール10万人会登録状況について報告がなされた。
3. 宮城国体参加資格について
宮城国体参加についての依頼に対し全日本活動を優先した結果とのことにより今回は事情に鑑み参加資格を認めることとした。
4. 岡山国体リハーサルについて
岡山国体リハーサル大会開催について説明があり、今後調整を進めることとした。
5. 全日本総合選手権について
大会要綱案について説明がなされ、原案通り承認された。
6. 社会人連盟構想について
第2回社会人連盟構想打ち合わせ会議事録に基づき報告があった。
7. 7、8月の国内大会報告
資料に基づき各大会の報告を行った。
8. NTSについて
ハンドボール強化指導教本NTS2001に基づき概要説明があった。部数が少ないため、ブロック指導者用として各ブロックに50部づつ配布したことを報告。
9. 7、8月国際大会報告
強化合宿、U－19欧州遠征結果、男子日本代表欧州遠征、第7回広島国際、女子ジュニア世界選手権の報告があった。
10. 女子ナショナル強化について
世界選手権までの強化計画を説明。強化資金について依頼があり、3案の中から、世界選手権特別協賛金としてお願いをする、ナショナルチームスポンサーの依頼の2案で手当てすることとした。
11. 男子強化について
2月世界選手権アジア予選に対する日本リーグ日程について、リーグ日程を25日間ほど変更するよう依頼がなされ、了承された。ナショナル選手のフルタイム活動について、フルタイム活動で個人技術のレベルアップ体力増強が必要であることの説明がなされ、企業によっては対応できないところも多く否決された。外国人コーチ招聘について説明がなされ、方向性は承認された。
13年度事業計画について中間報告がなされ、一応評価できる結果が出ているとの説明があった。
‘02年国内の国際大会について、春大会と夏大会について案の説明がなされ、承認された。
12. アテネ特別委員会
日本リーグオーナー会議など経過報告がなされた。
13. 新ルール採用について
日本リーグ及び全日本総合に新ルールを適用することを承認。
14. 日本リーグ関連
. 10月19日東武ホテルにおいて日本リーグ記者発表を行うことを報告。
第26回大会リーグ日程について報告。
日本リーグ担当新職員を紹介。
15. その他
日本協会ホームページサーバー移行について報告。新ルールの改正要点を報告。WGビーチハンドボール審判部報告

## 平成13年10月度常務理事会

［日　時］平成13年10月6日（土）
11：00～15：30
［場　所］東京体育館第4研修室
［出席者］山下副会長、岩井特任副会長、大西専務理事、常務理事8名、理事1名、参事2名、監事2名

### 議題

1. 全国理事長会会議次第について
会議次第について、スポーツ振興計画の説明、日本リーグ開幕にあたり観客動員のお願い、社会人連盟構想について説明、新ルールについて説明を追加することで承認。当会議の主眼を地方協会と日本協会のコミュニケーション向上に置く事を確認。
2. 世界選手権・アテネオリンピックのアジア予選について
アテネオリンピックアジア予選の日本での開催について、文書決済で賛成を得たが、これを提議するAHF評議会が延期となったため、日本としては予選の時期を2003年8月から12月くらいをベストと考え、AHF・IHFと話を詰めていく。
男子世界選手権アジア予選について、AHFは日本開催を承諾しているが、開催時期は2002年2月を主張、アジアナショナルサーキットと合同して4月開催の道を探る。
これらに関して、東アジアの主だった国に意向を尋ねることとした。
3. 日本選手団等の海外派遣について
日本選手団等の海外派遣について、以下のような立場を確認した。
・海外の様子を見極めて決定。外務省の海外安全情報などを利用する。
・所属先の判断が重要であり、最終的には個人が判断。
・渡航届出の徹底。県、ブロック、協会が状況把握することが必要。
・しっかりした保険をかける。日本協会の責任は保険の範囲しか出来ない。
4. がんばれ10万人会
サポート会員中間報告。還元金があることを再度PRする必要あり。
5. 国体移行について
国体小委員会での懇談内容を説明。何がメリットかを考えて議論する、競技は厳密に行うが設備にはお金をかけない方向にあるなど、説明があった。
6. 全日本総合日本協会推薦枠について
原案通り了承。
7. 社会人連盟構想について
社会人大会の新しい組織図の提示があり、日本協会主導でジャパンオープンを踏襲、実業団大会の高松宮杯を引き継ぎたいとの意向が示された。
それぞれの所属は所属として、子供から大人までのクラブを含め地域クラブと連携させて発展するように、平成15年には「社会人クラブ連盟」（仮称）を設立したい意向が示された。
8. 審判関係
JOC球技間レフェリープロジェクトへのハンドボールからの推薦者を承認。
審判審査指導委員会報告。
9. 普及指導関係
J級指導員規程案、同認定講習内容について承認。
10. 強化関係
女子世界選手権に派遣する代表候補選手、役員を承認。
「ナショナル会」〈仮称〉を結成することを承認。女子サポート体制も必要であることは認識しているが、とりあえず男子のみとする。
スペイン留学について報告。アテネオリンピックまでにもう一組送り出す計画。
北京オリンピックを目指す大学生・高校生のナショナルチーム結成の提案があり、外国人コーチを含め、具体案を11月常務理事会で発表。
11. 2002年ジャパンカップについて
2002年7月1日（月）～10日（水）とする、日本リーグチームの地元を移動して試合、フランスナショナルチームと日本代表αとβが出場するなど、2002年ジャパンカップ開催計画が示された。
12. 2005年世界選手権について
IHFよりの2005年4種別（男子、女子、男子ジュニア、女子ジュニア）の世界選手権開催地募集案内を資料として配布。
13. 登録料改定のお知らせについて
平成14年度以降登録料改訂について、各都道府県協会会長宛通知を出すこととなった。

## 「がんばれハンドボール10万人会」10月新規入会・継続更新会員の紹介

〔北海道〕畑　中　　裕
〔岩　手〕田　口　まり子
〔埼　玉〕境　井　秀　三
〔千　葉〕岡　本　　聡
〔東　京〕関　本　久　美、増　田　一　郎、
渡　辺　慶　寿、菅　原　めぐみ
〔神奈川〕小　川　　勇、小　川　洋　子
〔山　梨〕竹　越　幸　生
〔富　山〕嶋　田　重　春
〔愛　知〕西　口　誠一郎、横　地　宇　吉、
須　原　真理子、飼　沼　守　男、
植　村　真　司
〔三　重〕加　藤　克　彦
〔岐　阜〕柚　木　健太郎
〔滋　賀〕前　川　和　三
〔大　阪〕山　田　　稔、山　中　善之祐、
中　塚　富佐子
〔兵　庫〕幸　田　末　之
〔岡　山〕後　山　富士水
〔広　島〕戸　田　政　弘
〔愛　媛〕平　田　剛　啓
〔長　崎〕和　田　旬　功
〔熊　本〕大　島　隆　志
〔宮　崎〕和　田　保　典、税　所　健　好

## 平成13年度コーチレフェリーシンポジウムのお知らせ

平成13年度コーチレフェリーシンポジウムが下記要領にて、開催されます。このシンポジウムは、日本や世界のハンドボール界の現状や将来について議論をし、ハンドボールの発展に資するものであります。また、公認資格をお持ちの方には義務研修の対象となる研修会です。多くの方々の参加をお待ちしております。詳細については、２月号に掲載いたします。

開催期日　平成14年３月８日(金)～３月10日(日)
開催場所　東京代々木オリンピック記念青少年センターほか
協議内容　ＮＴＳ、新ルールなど

## ［12月の行事予定］

〈会　議〉
常務理事会
12月８日(土)　東京
〈大　会〉
全日本総合選手権大会(男子)（18頁参照）
12月12日(水)～15日(土)　東京・駒沢体育館
全日本総合選手権大会(女子)（18頁参照）
12月24日(月)～27日(木)　千葉・国府台／塩浜
ＪＯＣジュニアオリンピックカップ
12月25日(火)～27日(木)　大阪・堺市／家原大池
第15回女子世界選手権大会
12月２日(日)～16日(日)　イタリア

## HAND BALL CONTENTS DEC


（登録チームの購読料は登録料に含む）

# 柔らかな感触で、最適なバウンド！

## 新発売

new




PKCH3-AD DX
5,500円

new




PKCH2-AD DX
5,400円

new




PKCH1-ADJ
3,600円




## 手縫い・国際公認球






PKCH3-AD
4,600円




PKCH2-AD
4,500円




PKCH2-ADR
2,700円




PKCH3-ADR
2,800円




MIKASA®
明星ゴム工業株式会社

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第四二五号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十三年十一月二十六日印刷 平成十三年十二月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 三四八一－二三六一
振替 〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円